古今和歌六帖　五

830
181

帝國圖書館藏

ガラス使用

古今和哥六帖　第三

ガラス使用

古今和歌六帖第五

雑思

しらぬ人
いひはじむ
としへていふ
はじめてあへる
あした
しめ
あひおもふ
あひおもはぬ
ふる人おもふ
わきておもふ
いはでおもふ
人しれぬ
人はしるを
よる独をり
ひとりね
ゆきかへり
ちぎり
暁におく
一夜へだてたる
二夜へだてたる
相へだてる
日比へだてたる
としへだてたる
遠く隔る
うらみてあふ
宵より
物かたり
ちかくてあはぬを
人をとゞむ
人をまつを
人をよふ
道のたより
かよふ人
ひさしく
わするる
つれなきを

大正
12. 4. 25
購求

至下題五字並脱

ひかへる　たとへを　ちかふ　むすとよ

むかしあへる人　あかりよ　ちきる　人をとゝむ

めつらし　きのける　ちるよ　ちかへむ

人はゝま　家童子ゝとゝ　さいやを　さひしよ

在一恕月

主人母イとゝ化仙宮

くれとあをそ　人をとゝむ　とてまは　なと神む

たまもと　なき名　わすれこ　新せこ

かくれつゝ　あらそひ　今ハかひなし　あんよ

かゝみ

服餝

むすそを　むかつ　かゝ　もとゆひ

くし　たま　むのを　むすひし

かゝみ　まくら　手枕　えた

ふすま　塩やき衣　夏衣　蝉衣

ころも　から衣　うす衣　あさ衣

かハ衣　ぬれきぬ　はふり衣　ふち衣

裳　くつ　おひ　ひもとかり

たまのを　ふえ　琴　つゑ

ゆみ　や　くら　かふら

はや　たち　あふき　かさ

みの　かつら　はゝき

色

い緑　くれなゐ　むらさき　くちなし

かとり　錦綾

あしき　あや　いと　まゆ

ぬの

未考
同
万四
未考
万七雑挽
好忠集
家　後拾二
伊勢　業平
古今　在山已出

しにぬ人

ゆくもかへしにぬる人をしるとしにぬる人こそしる人にあれ

たのめこし人もなき世をいかにせん後のよまてもわすれやはせん

なかとみの女郎

春日山あさゐる雲のおほつかなしらぬ人をもこひわたるかな

新勅哀一読人不知
おほゝし 万
ほしく 万
又万
ろものかも 万

春霞たなひく山の夕月夜おほつかなくも恋わたるかな

きのふもけふもなき人おもほゆ 万十

あきつのにあさゐる雲のうせゆけは昔も今もなき人おもほゆ

きつ野に 万
うせ 万

かへりこぬ人の恋しきやみなれはわかつるよにもしらん夏のよゐのやみ

拾遺一哀傷好忠

とものめ

我心いつまてひくかなき人のおもかけやかて恋しかるらん

するかなる宇津の山へのうつゝにも夢にも見ぬ人の恋しき

新古羇旅業平
するかなる 伊勢 新古 中二 在
おもひ 中二
人にあはぬなりけり 伊勢 新古

未考
後恋三　兼盛
万十一
古恋一　貫之　貫之集
後恋六　読人不知　新後集
後恋六　読人不知
未考
古恋一　読人不知　伊勢
万十

かそへさもあらぬ人をまつといはゝ[illegible]いそいてなき心こん

むら鳥のたちにし我名いまさらにことなしふともしるしあらめや

（後古恋一人丸）[illegible]霧のあ[illegible]（よろしと万）妹に月日の[illegible]なる[illegible]（も万）

世中ハかくこそありけれ吹風のめにみぬ人も恋しかりけり
いのちもし世

こひつまはしのひてねぬる恋よりも心よ人はしらなん（しるらめ　後）

こひつゝもまつ年をこえつゝ猶ある袖ハ心ありけり

ますかゝみあはせぬ人の今は恋しあはかねてあはる恋しき

さそふるさへぬるもふかやるかすて[illegible]いそてしる

出くるもしもの影[illegible]花のちるらん
うかけ
中

（新勅恋一読人不知）あしかきのまちかきるよしのさし
相素ハ新[illegible]

（天徳三年九月十六日[illegible]中宮の女房歌合[illegible]）

後恋四　友則　友則集
後恋三
後恋四　敦忠　敦忠集　新後集載し
未考
万四　又十一　人丸集不載
万十一

むかハくあまのかやの海のそこひも[illegible]

（拾恋一読人不知）おもひあまり人にやはなくしらせんや君
九條の右大臣

（拾恋一）あすか川の津速も年ハへぬれとも心ハ雲のよそに
藤原のあつたゝ

池水ハいひ出ることもなけれとも[illegible]

年月ハあらたまれとも[illegible]後の新世に
とし[illegible]いくよ
ひとまろ

（拾雑恋人丸）をとめこか袖ふる山のみつかきの久しき世より思ひ初てき（きわれは万）

いまはわか妹とはいはん年月のゆくらん方もおもほえす哉

家
後忘一
亭子院法皇廿

後忘四

家不載

万十

古忘一　後人家

未考

古忘一　貫之
貫之集

いせ

とし河絶てゆくらんとしのはめのうらみつゝ人をあらく
はかなや
ひとしれぬ夜（左九）

霊（山ひこの後）をなきよりてとも年のあら紀抱ひとしれずぬる人を（えつゝ後）（漢と官）
つらゆき

いくよしも秋のあかやまをとる浦をまたく暮ぬる

しもつ氏枕なましとく嫁とあまたとめる照らすてくれなゐ（新古二西宮左大臣）
そへまけり

年月はさとこそゆかしれどせよわかうちそうるな（新古のとうるてわ古）（めれとて新古）（の新古）

行あれき君も松にはあるる氣とこそあたらさめ（コゝろ古官）
やいや

東路のみよ無情えぬかしてゝやかはゆくまを君（一万七）

古都門岩波るくれなのこやくそ人をまたしりあて

万九

同十一

古忘二
家

家不載

宗于集
家

同

同

かくしな紙ゑてより定たまきはる今年秋は捕けくはし（のこりなく　わかく八万）（わかく）
そらちねの歌よみかさねは書あまたあそひすま年て（すゝろ万）（みな官）
つくし
とものり

としのうちに浮世ゆいへとこのゆる人紙は程ありゆけ
貫之

數へて世紙や涼くきんとる紙のそ影をきは心あるか
つらゆき

年月もしらずしてあらためそ暮れとゆきてゆかん（於雑上兼之）（後ふ忘四宗于）
まかけぬ（すゝろゆけと於宗于集）（すゝろめれと後ふ）
同

ゆきてみる年はくせとみ親なくえうなる成ゆくそ

人まち遠く紙しる紀つく年の道は常れ若き抱しやはや（も家）

古今三　六帖

古今二　古六帖　後撰　業平　業平集　伊勢集

古今六　六帖

是則集

万十一

万十

万十一　下紙

年ことにもみちは流すたつた河みなとや秋のとまりなるらむ　貫之

三つね

[illegible]あまて年ふる[illegible]人は[illegible]

[illegible]

[illegible]年のくれ[illegible]

[illegible]

[illegible]年[illegible]

[illegible]

[illegible]

万四

万十　新古

業平

万

万十

万十一

万一　新古

万十一　新古

業平

[illegible]てある

[illegible]山[illegible]　人丸

[illegible]月[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

君か代も我世もしるや岩代の岡の草根をいさ結てん

[illegible]

[illegible]

万十一
同や
古今三 後人丸
古今三
未考
同
後撰三

山のはにいつる月のいさよひを（いも万）まつるよそふけにける

人まろ

出てゝあつる時ゆふつくよ出をつくしてよはなくと（ふりて）

清に見えくあまみをかゝる月影に人をあはれ（みえぬ）

あゝを

大伴坂上郎女

ちはやふ

けさりしもおきさんかたもしらてまつ日出るをまてしはし

鳴門よりわきくやまつる河のひるまもなきそわたまねもし（後三 なるとよりさしいたされし舟よりも我そよるへもなきこゝちせし）（たゝろ 宿）

あかなくに星合の空の風に立浪のよるよるも（星合 後伊勢 夫木十五 浪のよるよる）

閑院乃大君

いはのまにかゝる雨露のけさしもおきて絶ゆまし（か 衣めれ 袖のひるまはくるる）（釣 宿イ）

未考
貫之集
未考
古今三 伊勢物 第一帖 両已出
未考
同
後撰之 業平
同 貫之

ゆふされの浦によるなみにあそふ鳥はゝをたれてよそにあかれん（夫木十七 後人丸）

百羽かきはねかく鴫もわかことく君か来ぬ夜はかすかきにけり（拾恋二 貫之）（まさ 宿）

おほつかな月のかけろふみちのほのかにもみえてかへるは（拾恋二 貫之 あきあはけろふのかゝみえてし）

なかりし（ろ 宿）

きのふまてふくれはせんと思ひしかあけてはけさのなつになりにけり（おもくし）

かくれぬの下はふ水のゆくゑもしらす（おもくし）

夜をさむみさゆる月影をおもひいてゝ

ゆくへ

あひおもはぬ人をおもふは大寺の餓鬼のしりへにぬかつくかこと（宿）（こゝそのとし）

あかなくにまたきも月のかくるゝか山のはにけていれすもあらなん

貫之

影見れは月もまさりてみゆるかなさやけきをとめまたもかりなん（七夜）

新古集偏　　万三　　同　　同　　同七　作者未詳　　同　同

あつたゝ

拾三　あひみての後の心にくらふれは昔は物をおもはさりけり

とあ　家持

足柄のみさかかしこみくもりよのわかしたはへをこちいてつるかも（をほえ割）（こうしゝ万）

大伴のみつとはいはしあかねさしてれるつきよにたゝにあへりとも（のこそゆふ）

山あひにふりしく雪のけぬへくもおもほゆるかもこゝろなる人（もゆるかなろ）（りう万）（志の浜ちんを志の浜ちんもくとるちや八宮）（大伴とイ万）

梅の花咲てちりなは人はいふとわかなあるらしあさなゆふなに（採ん）（しのゝの花割）（まあし万）

葛城やくるまの峯にあさなゆふなにさかすみきてあさをなきたかみ（の万）（てむ宮）（さ割）

万十九赤人の歌の心ハ人のなき跡に妹を似そなへてとさゝらかに思ひふたつなるかたをこえて通よりの心ちの中にかゝるなることを思ひ出ることへ也（いゐわや）

君により言のしけきをふるさとのあすかの河にみそきしにゆく（まちわ）

やうもち

後撰　読人不知　　万七　　同十　赤人　社己出　　同三　　同十　赤人　山田己出　　同二十　　同二　　同三　金明軍

後撰読人不知　二はなかに秋とおもへは梅の花の盛を人はおもひけれ（きて後）

拾雑名人丸　かくまのの山のうへにさけるはきのこゝろをしらてかもちるらん（こも万）

拾雑社後人丸　いつしかとまちしこゝろのかひありてさきにけるかな秋のはきはら（いつきまつて中々月秋の赤人）（ちりくるてよ）（のとも）

妹か家にさける梅の花のいつも咲なんやとおもふかな（わあ）

あしひきの山田つくるこのてすさひにさくらの花をつゝみてそたる（赤人　山田つくるとまる）（わちさの万）（いつとものるへ）

住よしの濱松かえにかせふきてそなれし波もかへりさきてれ（の万）（くめの万）（つく赤）

家持

わかまのゝ王子（但馬皇女）（さち）

おくれゐてこひつゝあらすはおひゆかんみちのくまわにしめゆへわかせ（お）（お）（しの万）（くまつるる万）（女宮）

とあゆのよくおきさりて住吉の濱松は秋つま（こ万）（ことて宮）（手代宮）（まつ万）（松）

あひおもひよ

万四　後撰四

[illegible]

万十

[illegible]

同

[illegible]

中臣女郎

万十一

[illegible]

未考

[illegible]

万二

[illegible]

古六　貫之集　貫之　宗于

むねゆき

[illegible]

古六

貫之

[illegible]

万四

あへの女郎

今更になにをかおもはんうちなひき心ハ君によりにし物を

あの[illegible]ね

万十一

あひおもはぬ人のゆへにやあらたまの年のをなかく我恋をらん

未考

[illegible]

同

たゞみね

古今二　忠岑　忠岑集　古六

月影に我身をかふる物ならはつれなき人も哀とや見ん

後撰中　古六

みつね

[illegible]

山くちの女王

万四

未考

万[illegible]

未考

同

新[illegible]恋五

後撰三　忠岑

忠岑集

万四

同

[illegible]

あはぬよの[illegible]白雪[illegible]

まてとしも君を[illegible]山[illegible]細谷の[illegible]

人まろ

あはぬよの[illegible]

秋萩[illegible]

秋の[illegible]

あはぬよの[illegible]

秋[illegible]

見えつね

春[illegible]

[illegible]

未考

[illegible]読人不知

万七

同

同十一

古今四　読人不知

伊勢

未考

同

同

[illegible]浦の[illegible]

秋[illegible]

[illegible]

妹がかど[illegible]

むかつを[illegible]

わすれてしよ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

もしほ[illegible]

あま[illegible]

人まろ

万十一

からのまと大宮人はおかりしとやまて遊ふ[illegible]

後恋三 忠岑集　忠岑

心み[illegible]ゆく[illegible]けるしらなみ[illegible]

未考

あまの[illegible]ゆけとも[illegible]

万七

よろ[illegible]心の[illegible]

未考

心にはしたゆく水のわきかへり[illegible]

古恋一 読人不知

あしひきの山した[illegible]

未考

[illegible]

古恋二 家

[illegible]

人麿

万十一

あしひきの[illegible]山川の瀬の[illegible]

いせ

後恋四 家[illegible]

思ふ[illegible]

人まろ

万十一

たきつせの[illegible]

同 人丸集

[illegible]

同

山河の[illegible]

古恋一 読人不知

山たかみ下ゆく水のしたにのみなかれてこひん恋はしぬとも

よみ人しらず

同恋二

[illegible]

万十一　後撰三 忠岑集 忠岑　忠岑　万や　忠岑　古今一 読人不知　忠岑　古今二 家

古本 わしき　ももしきの大宮人はおほかれと　人丸　我思ふ人はこよひそ見まく[illegible]

人まろ

もゝしきの大宮人はおほかれと[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かけろふの日記
けしもあれかくさゝれの
おとまさりとちらさくの
ゆきとしてこそふれ
とし
まつのまゝとゝめつる
ゆきかはおこめれし
なつもさらなん

万十一　後撰四 家 古今六帖号云　万十一　同　同 人丸集　同　古今一 読人不知　同 古今二

[illegible]

[illegible]

人まろ

[illegible]

[illegible]

山[illegible]

山たかみ人もすさめぬさくら花いたくなわひそ我見はやさん

うくひす

吹風をなきてうらみようくひすは我やは花に手たにふれたる

家
後恋二
万十六
古恋三　読人しらず
同
新撰集　千首　家已出　新撰
万七
友則集
古恋二　友則
同恋一　読人しらず
万十
古恋三　読人しらず
未考

万十
同
古恋二　宗岳大頼　千首　氷已出
後恋五　貞数親王
万十一
同十　千首　露已出
古恋一　読人しらず
新撰集
万十一
同九

貫之

拾遺恋一　後撰　家
[illegible]

[illegible]

名取河せゝの埋木あらはれはいかにせんとかあひみそめけん

恋しくは下にをおもへ紫のねすりの衣色にいつなゆめ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

吉野川の水の心はゝやくとも瀧の音にはたてしとそおもふ

後撰
[illegible]

[illegible]

[illegible]

冬河の上は氷れる我なれや下になかれて恋わたるらん

[illegible]

[illegible]

夕激
[illegible]

[illegible]

新勅恋二　読人しらず
[illegible]

新古恋一　人丸
[illegible]

ガラス使用

家
同
伊勢集　古今五　伊勢
同恋一　読人不知
万十
同二　但馬皇女
万葉第六　或

須[illegible]あまの[illegible]
[illegible]
貫之
あ[illegible]
人[illegible]
人[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
人麿
[illegible]
家持

万十二　作者未詳
同十七　平群女郎
万葉第六　或
万八
未考
同
万十
同十一
同十　[illegible]

[illegible]
人麿
山城の[illegible]鹿の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]月[illegible]
[illegible]
穐萩をちらす[illegible]雨のふる[illegible]こふる夜そ[illegible]

万葉ニ不載

人まろ

旅ねてこ[illegible]あま雲の[illegible]心ハ我せハなくに

（万十一云 [illegible]てあるなりひとり 下句全同）

万八

（拾遺 大伴坂上郎女）

[illegible]島ハ[illegible]旅ねてハ[illegible]あまりけハくるしも

大伴坂上郎女

門や 大伴家持

（拾遺 羇旅 大伴家持）

[illegible]のあさ露のおきてくる[illegible]

伊勢集

旅ねよ[illegible]白露ハ旅ねる人の[illegible]

（貫之集 [illegible]）

万十

人まろ

（玉葉 二人丸）

かきくも[illegible]家[illegible]旅や[illegible]君[illegible]

万葉ニ不載

（拾遺 羇旅 人丸）

[illegible]月の[illegible]旅しあまりかなつる

貫之集

旅ね[illegible]の下[illegible]旅ねる[illegible]

家持

（新拾遺 羇旅 家持）

あさ霜お庭[illegible]旅ねかん

万八

（夫木 卅二云 万葉集人丸 但流布本集不見）

おもひ[illegible]旅しあまいもして[illegible]妹よあきらき

未考

人まろ

古今二 羇旅人丸

（新古今 羇旅 人丸）

むはたまのあけゆく[illegible]旅ねかん

万九

旅ねをも[illegible]旅ねるよは

貫之

未考

（拾雑秋 貫之）

旅ねをおもひ[illegible]雲のふるらん

旅風[illegible]白[illegible]妹[illegible]

古雑 [illegible]

[illegible]旅[illegible]

万十

[illegible]旅風[illegible]ふ

万三
未考
[illegible]
万四
古今四 読人不知
同 古今集 友則

きの王女

かるの池の入江めくれるかもすらも玉藻のうへに独ね[illegible]
[illegible]のちりのまかひに時雨にて[illegible]妹[illegible]
[illegible]ゆき

妹[illegible]の下紐[illegible]
[illegible]
[illegible]

石間行水の白浪立かへりかくこそハ見めあかすもあるかな
貫之

春霞たなひく山の桜花見れともあかぬ君にもある哉
とものり

同
後選一 読人不知
未考
万三
同九 作者未詳
同二十
未考
万四 [illegible]

ひ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

青柳の[illegible]君[illegible]
[illegible]六田の川の河柳[illegible]君[illegible]

年月ハあらたまれとも[illegible]君ハ[illegible]
春の雨に[illegible]柳[illegible]
[illegible]

[illegible]

古雑体 躬恒
躬恒集不載
同恋三 躬恒
小町集載之
同 不
万十一
同
同
古恋三 藤原国経
素性

朝詠秋歌
むつこともまたつきなくに明ぬめりいつらは秋のなかしてふ夜は
みつね
なかしとも思ひそはてぬ昔よりあふ人からの秋の夜なれは
こまち
秋の夜も名のみなりけりあふといへは事そともなく明ぬるものを
新勅恋三 読人不知
鳴めくくの鳥よむねさす明ぬれは君か手枕わかれゆく
拾恋三 人丸
あら玉の此ころ暁そ侍りひろしゆく袖まくらくはなし
かけろふのはかなき心あさましく明ぬとてさらに道をいそきけり
閑院左大臣
あけぬとて今はの心つくからになといひしらぬ思ひそふらん
こひしくて帰るみちの夜のあかつきは鳥の音つらき袖ぬれ
そせい

本
古恋三 敏行
敏行集
後恋四 貫之
貫之集 貫之
素性
万十一
下 読人不知
伊勢集
素性
後恋三 貫之
貫之集
万四
同十一

古今恋三 こひしくて帰るさあかつきの
後撰恋五 独ぬる時は
なくらは今はあけて朝露のおきてしくれは袖そほちぬる
貫之
明ぬとて帰る道にはこきたれて雨も涙もふりそほちつゝ
拾恋三
暁のなからましかは白露のおきてわひしき別せましや
月影はあかすみるとも松枝のくものうへのつるかなく夜半
人めもる君かまにまに我さへに夜をこめつゝやおきてそれめくらそ
下の月あかれハの前
鶏のあか音をきくも暁けん鳴めるこゑ夜かれかハ
伊勢集
き明といへともそきける聲まつる
いかて我人にもとはん暁のあかぬ別や何に似たりと
このよらの 万
このよらのはやく明ぬはと秋の百夜を願つるかも
くるゝの下
月しあれはあくらんわかすもそしてねて我こしを人みけんかも
あくらし 万

同や　家　未考　同　家　万四

我背子に又も（む万）あはじかと（かと万）思へばか今朝の別のすべ（すべな万）なかりつる

たかたの女王

ひとよふるふきみにけるらん（きえんはきえしろん家）露の身をむとはねぬまにまよふらん（あらぬ宮）（きしまうふ家）

いせ

一夜へだてたる（へだつ宮）

あまの川あまの渡てゆきゝをは今夜月へてハ渡るらん

なよ竹よ枝さしかはしてうへの鶴のよにかよふ君にはみえまし（万七 妹かとをみかひちのそのすき袖かよりてひけるのあ）

貫之

いつしかと今や一年川かはの渡りてもやくむもかつらん（新勅撰八）（て家）（て家宮）

くれ竹のよにけて袖をしほひ一夜へだて河るみえつゝさふ

あまさかるひなにねむる君ハ久かれはよんで雨にあかるなんぞ

同上　同　同　同　同九　同や　家又考之家

こひわびてよるはふる袖をしほりつゝみるをとこひてみえぬる人をあふ

我妹子がぬる夜のさむき袖をも紐ときてよひやすらんすてなかなくなに

人まろ

わが夜ゆくとおもふよ乃まつゝ袖今のあはまにかさね袖（風三 竹人之）（ひゞき宮）（もつ万）

まさよはて今夜をあかねてそいまさかりつきてこまかりけん（ゞ万）（た万）（きまく万）

ひとまろ

あふとみれはあふとみやまの風よりてなみてよしまれぬる（ゞ万）（ますゝめやも万）（あく宮）（あく万）

ゆきひらの朝臣

さて一夜へだてゝかくもあるものを月ものつきと物おもひをする（ぬ万）

見つね

君にあひて一日二日にもくれぬかけはきよみにもそらしたりし（ここにて これ 家之集）（まろうど家）

新撰集 貫之集

万十一

素性

万十一

同

赤人

なし

（拾雑秋 貫之）あひみすて一日も君にならはねは七夕よりも我そまされる　貫之

二夜へたてたる　人丸

君かめを見まくほしみて此二夜ちとせのことく我はこふるかも

君によりて二夜はかりをへぬるをけ今宵はそてもあかしつるかな

日へてよむ歌

ちかくしもあさてをみれはたつ雲のあはれとそ思ふ君かあはぬ夜

人めもるあふ瀬の中やまぬるをあひみてもなほあかぬ夜のゆき

ひとりゆき

やへひとつなる心に君を待てはうらみんとて夜はよひの月もかな

（後撰恋一 あふことはひとよのほとをへたてつつ 貫之）

貫之

同

万十四

赤人

山吹之玉

万十

万四

同

同　笠女郎

同

ちかけれと逢ふ事かたき海そかしつてみれはあかてやみぬる　人麿

（万十四 梓弓の末や）

草陰のあらゐのさきの笠島を見つつか君か山路こゆらむ

なかめつつ今は山路をかへるへき君をはまつとおもひそめてき

久かたのあまのかはらにとひわたる月そかかしとよみつるかも

日比へてよむ歌

春日野の山辺のみちをそれなくかよひし君か見えぬころかも　石川女郎

いなせよの君

松のはに月はゆつりぬもみちはのすきれや君かあはぬ夜おほき

白鳥のとは山松のまちつつそ我恋わたる此月ころを（飛羽山松）

夕されは物思ひまさる見し人の言とふすかた面影にして（言問 コトトフ）（為形 スカタ）

未考 はつひのそらにくもふかきて影もしるし月の上はる

同 天河まくらかはしてあひみてはみな夜はわれはなきつきき
万十 あひみてひとはしかちをとえつるとくぬ妹とけわたるて 中院

万九 このゆふる月かさなりてあはれとは思へとさらに思ふことなし
されと 万三同

未考 若宮のかくれにあはれゆふへのかたみにはみえ里ものを

人まろ

万十一 作者未詳 あひそてふいくひさまあやふ見月のこし数ゆるなる
拾遺三人丸

同九 かきつはるもの人もこときさけまゝあまの日かけゝ月の空に
あまくも
かも万

よみてとを歌

未考 はるのよは妹かところをわくらはに若きはゝしけきの紙

ひとまろ

同 あみるもてよ月のをあやしくてかはたふとてあはれなる
そら

此集 をくしもとこそをともしらぬをとりてゆくふる君
を を

大伴郎女

万四 さほ川のこいしふみわたりぬはたまのくろまのくるよはとしにもあらぬか
さゝれ万 小石 ぬ
黒馬 令撰

未考 さほ川のかはなみこゝろうへなくるよとをりてまよとゝなみえん

万四 下口笠女郎 あらたまの年のへぬれは今しはとゆめよわかせこわかなつけそね

万 かさの郎女 歟
安貴王

同 しきたへの手枕まかてへたてゝ年そへにけるあはぬおもへは
ぬおもひ万

い路

ふ 年経てとこぬ人まつと世をあてゝそ猶まちわたるかな
ことぬ気 世気

とほくへてをる

万廿 村鳥のあさたちいにし君か上はさやかにきゝつ思ひしことく

未考

ちるらしとよそに見る程をしてはかへるかりのかゝらめ

万十一

わひてこそまてうたかたのあさひの山ゆきてくいねてあらめ（加）

新撰集

わかやとのやなきをはなのかすにてかへるといはしとそ

後撰三　貫之集ニ載　貫之

貫之

万五家ニ載

月かゝる君きまさんといひしかと今日もくらしつあすもこそ

万十一月みてそあるとはいへとそれかとみえすきみにまてしもなし

やかもち

万四丹生女王　天雲のそきへのきはみとをけれと心しゆけは恋るものかも

足曳の山にゆきてとほくなりぬともとひくへきみつ

万七　赤人　雲已出

万之巻志賀の石上卿作　一云其人集中乙麿卿ノ名ヲ記セリ今名ヲ定カタシ（なほ後）

いそのかみふるのゝ道をしまらくもきみはゆかなん（まちききてこそ今按）

宵めてはやいつこの宵にもひくらしのあかつきにまてすきぬかな

人丸

万五家ニ載

赤人集　妹か家路まかることはなしやさりの山かくれしりの雲もいひしと

春雨に衣はいたくとほらめや七日しふらは七夜こしとや

万四

かくしてやなほやまからんちかゝらぬ道のあひたをなつみまゐりて（かへらん万）（まゐきて万）

さらまてあへる

あかぬ家持

万八

秋ののゝおはなかすゑをおしなへてこしくもしるくあへる君かも（おしなへて）（こしくもしるし万）（参来而）（かも万）

万四　志貴皇子

大原のこのいちしはのいつしかとわか思ふいもにこよひあへるかも（や）（と万）

万十一

今はなと思へるものを君にあひぬるかも（あひ）

万十

霞たつ春の長日をこひくらしよのふけゆくにいもにあはむかも（つ万）

未考　万になし

あかむすひまへのもゝくさ夜もすからなかめくらしつ

万八

君か家のかと田を見んと出てこし心もしるく照月夜かな（うちいてこし万）（あくるきこゝろかな）

家持

よひのまし

むねのきぬくまに君かなほさやかへるよりはあかなくに（てし）（むし）

万十四
後撰一
未考
万八
未考
兼輔集
未考

おきてゆく妹はまかなしもちてゆくあつさの弓のゆつかにもかな

貫之

朧けに何しか人の別るらん道は霞もいとゝしかりけれ
明るまてあるらふあたなるよはよ霞ひくことしらさ

梓の弓ひきのまのおもてくさしの君はあつる今宵
袖かな

芦垣に月はかねてもさしそめの花のひとめ袖をあらん
ゆふ日のよかりし間ゐるにふたつてゐる行あとゝる
あるとき秋はすまひかへるて我すむ袖と別てこそ

いつまてかさんさへ行すま里の君ゆめ
君とあれはとゝ目はしめのゆふしめいなやしるらん今は

ちりてのちまて

白露はねて更に今は錦ちらん我の宵
人しれぬ思ひやなそと芦垣のまちかけれともあふよしのなき
言よの許を守らん芦垣のまちかへまうものかな
ゆきして宿に君をまちつゝ芦垣の隙にそのしるしみん
よしさらは何かこゝろを尽くさんと人の我ゆかしる

山のはに入らんとする月見れは我そみちかへるあらん
かきくらし霞や門とて隔つれは我身さへこそしらねとさ

人しれす

まちわひて恋しき君をいかにせん物を思ふそあふよしもなき

つらきさ
けふくる

伊勢集
貫之集
未考
伊勢集
後撰一 後人不知
未考
万十二

家　古新一

奥津洲る師の床はすれなのまつかそへんと縫(?)つゝみつ（於雑恋）（古於恋）

雨ふりん月のおもやむる久堅の月はなほあへのちとを（拾遺之集）

とやきみてをとあふ(?)ひるの雲路おもしろみて君をとそ（日下ノ山ラ三在之信）

雲路の土都の月影やちとも宮ゐをゆかせる

あきらけきよのまもおもひわびおくる君をまちえん

かくのみや君をまちかねん夜更て出る月をまちかと

道殿の筆をおもひわか我をまちしと嬉しつるを人（新千恋三 読人不知）（こそ万）

花見つゝ人待ちきしは白妙の袖をのそあやまちとそる

あやもしれぬあふよの空の月をまもらめ(?)ひんある（於恋三 合）

住吉の我まちわひよゐあまの月をあかぬふ(?)きあらん

ひとりねてのちのみつく月まつとみるかけの神なかへ（見川の山より出る方）

家　古恋四

今こんといひしはかりに長月の有明の月をまちいてつるかな　そせい（朗詠恋）（如古明）

松風はまさくんにしてしつまに残りやかへしきん

月夜るハよしあひのよかき人を逢ひてまちこひしらん

有明の雨はれの山の月影のかけ行やあかれんとあり

今くと我まち妹はすゝしき山の風のをとをきくらん

我はいかけや月の袖のまにゝ花のさかゆる（於恋二）

（かさきしの松のうちをとさ山　はれなよの月あかつき）

ほとゝきす

あかなくに月をみさかのふもとのさとにや秋はまさらん（新和恋五）

まつとて

大伴の郎女

あんとみひくあふなき秋をまちわひてみえまし（いやしき方）（とものこ万）（とゆみ方）

摘(?)せ

素性
今こんといひしハかりに長月の有明の月を待出つる哉
てふとハ不義

同
待人はきまさてもせしとやらん心の夜ふけゆくまてまちもこそすれ
於惣こぬ夜あまたのつれなさのまちしとそ思ふわか人は

万十一
ゆふけとふうらまさしみやつかさると宵たかまきぬ君ハつらきまえ
於神有佐よしのきしハせさしんあるあなかねくやくるまいといふ人

同十
夕暮ハ秋の旗荻そよくと露は置けり君まちかねつ
けれて佐まちわかし 万

同二
君かゆきけなかく成ぬ山たつのむかへをゆかむまつにハまたし

人をよふ

万八
我宿の萩咲にけりちらぬまにはやきて見へし
君まちて 万

同や
月讀の光にきませ足引の山をへたてゝとほからなくに
きへなりて 万

同
月よみの光は清く照せともまとへる心おもひあへなくに
まとへる心たえすおもほゆ 不堪 万

古恋四 読人不知
月夜よしよゝしと人につけやらはこてふにゝたりまたすしもあらす

素性
打むれていさ我人は秋山の森は紅葉のちりてあらなむ
或本 森いとゝやも時雨ふるころのかりあはれつゝしもうらみてくれ

万十
我宿の萩咲にけりちらぬまにはやきて見へしならの里人

同
藤原のふりにし里の秋萩は咲てちりにき君まちかねて
咲出る 万 宮
又 万

読人ゆき

家
月讀によ行まよひて秋萩の咲もみちまつ君や人もみなくん
くれ
大伴坂上郎女

万八
こゝろ花にハ見てまきまし梅の花咲る月夜は手にさくとや
やこゝろ花ハ 万
宿梅有者 万
う
月夜よし
読人ゆき

家云し 新撰集載之
后うそてよみ人こそまつ心の中は君かまつけハあまりそこなる
とゝのへて 新撰集
と宮

後撰中 五条の王
こゝをとへく花のさかりまてもつくゝとわかるるなりやさりくん
貫之

同し
わか那つかまにはさそふ人まちわれとは自野の花の心ハとてかのめしまの紙

未考
万十
家持
万八
古意四
未考
同
同

とりも[illegible]花の[illegible]

むかしみし人を[illegible]妹[illegible]
[illegible]

あちさ[illegible]花の[illegible]
[illegible]大君

[illegible]
[illegible]

むかしみし人[illegible]

濱千鳥[illegible]心[illegible]

[illegible]

いは[illegible]

万八
未考
後雑之 貫之
貫之集
未考
同
赤石[illegible]之出
古意四 [illegible]
赤石 [illegible]之出
未考
同

[illegible]つく

吉野なる[illegible]の河の[illegible]

やま[illegible]

波[illegible]の[illegible]風の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

家

未考

古恋五 伊勢集 伊勢
古本以下 山巳出

家

後恋三

門
古本以下 既巳出

伊勢 業平

未考

なかひらのあそむ心にいでゝみえこそかはることにかはりける
心さし身をよそかけてくる雁のあまる涙にぬるゝ袖哉
三輪の山いかにまち見ん年ふともたつぬる人もあらしと思へは
貫之
かりそめのゆきかふる君いそ今は限と思ひてし哉
ふるさとて
小野宮太政大臣
今更にとふへき人も思ほえすやへむくらしてかとさせりてへ
忘れても思ひ出なしとなかなかにとふにつらさのまさる比哉
君をおもふ藤の花ゆゑ人をとふ我に恋つゝ
秋の夜は月をみるとて物思ひや霧のまかきにぬれてまさらん
流れくるもみちの影のたえぬれはくやしくもある物哉

万十

門十一

未考

門

万十
古本以下 巳出

門十一

未考

万二

未考

塩山の霞たなひきはるかなる宿はいつくと我忘れめや
人まろ
あさ人のゆふへにきつゝ海のゆくへを心わすれめや
忘れぬる時もあらなむ今はたゝ我身のうへにかゝる物から
かきくらしふる白雪のきえかてにぬれてそ思ひ忘れかねつる
忘れ草我身につめる人からは我をは人もいひやせてまし
おもひいつる人もあらしとおもひつゝ我はわすれすまてしも
久かたの月の天てる月の空にある君をはよそに我はなけかん
おもかけのわすられぬ身のつれなさを思ひわすれし人も我かや
なかきよのなき人の心かよひなく思ひそふれは
或裏書云此間有心變之題而無哥任古本耳

ガラス使用

たつねても

未考
（後撰恋五 人丸）
足曳の山乃[illegible]人[illegible]

後撰上 朱雀院兵部卿親王
（詞花雑上 [illegible]）
あさましつま[illegible]ハなけれとも[illegible]袖にはかゝる

未考
（梅の後 官）
桜花今ハ[illegible]ぬらん[illegible]人の音つれもせぬ

（古今 [illegible]）
鶯も[illegible]とそつくとまてや[illegible]まさりつる

伊勢集
（拾遺恋五 読人不知）
（[illegible] 伊勢集）
月影は[illegible]あくとや[illegible]音信もせぬ
（人の　伊勢集）（次の歌）

思ひいり

官
くろめ　六二十之

古恋四 忠岑
（古今天皇 思ふ人女王御製 此天皇ハ聖武天皇 [illegible]）
[illegible]河ハ[illegible]の湊て流るとも人やとまらん
あかのみと
（古今序小注与今同）

万七
[illegible]雲隠れ[illegible]
（けるみ 万）

未考
[illegible]人をと[illegible]
（子官）

万十
（新後古恋五）
露霜に衣手ぬれて今たにも妹かりゆかん夜は更ぬとも
（子 万）

同十二
あさまたき竹の葉[illegible]露[illegible]
（上白く 万）
（[illegible] 新後古）
（ハも 万）

家持
後恋四 読人不知
打わたす[illegible]やまとるそ[illegible]
[illegible]

万二 高市麿
（拾遺雑恋 人丸）
山代の[illegible]結ひね心もとけて[illegible]
（いむしおもはぬ人 [illegible] 万）（古）（所）（念）

同三
（後撰雑上 読人不知）
[illegible]瀧の白[illegible]音[illegible]
（あらき 万）（浪）（古）

同
（玉雑四 [illegible]）
[illegible]今もとけ[illegible]夜[illegible]
あかまのそこ

同二
[illegible]の[illegible]あ[illegible]
（さして）（さら）
[illegible]のへ[illegible]
（おま 万）

同　同　家持　古恋五 伊物 家　万四　同七 古今集六

岩代の岸の松かえ結ひけん人はかへりて又見けんかも

人まろ

玉雑五人丸 万ニ作者

後見んと君か結へる岩代の小松かうれを又も見んかも

貫之

年ひさに流るゝ宿は花見えて[illegible]の物思ひそつ

やかもち

月やあらぬ春やむかしの春ならぬ我身ひとつはもとの身にして

なりひら

今は[illegible]人を[illegible]

むくつけ[illegible]

貫之

家 古恋四 伊勢集　赤人　万十一　同三 赤人　後雑一 貫之 貫之集　万十　同七　同一　同十一

いにしへは[illegible]むすひし[illegible]

新古哀傷清慎公

女郎花見るに心はなくさまていとゝむかしの秋そこひしき

古今 三月 [illegible]

時鳥[illegible]ふる郷

むかしあへる人

玉雑四[illegible]

[illegible]いにしへの人をおもへるかな

いにしへ[illegible]松のまさ見れは昔の人をあひ見るこゝちこそすれ

折りて[illegible]松の[illegible]なりまさるかな

住吉の[illegible]

[illegible]

[illegible]

よろつ[illegible]

人まろ

伊物　業平

今までに忘れぬ人は世にもあらしおのかさまさま年のへぬれは

未考

石上ふるの社の[illegible]心は今もかはらす

同

[illegible]の[illegible]て昔の人そ今も恋しき

後撰　朝忠

大鳥の[illegible]人まあれて[illegible]

貫之之集

石上ふるき[illegible]の[illegible]て清水[illegible]

古雑上読人不知

いにしへの野中の清水ぬるけれと本の心をしる人そくむ

万四

[illegible]世[illegible]昔[illegible]

家　中務集

いにしへの心も[illegible]いせ

人まち

万並家持

[illegible]人まち

同十一　上寺[illegible]

三輪川の[illegible]

同四

[illegible]人[illegible]君[illegible]

同十四

[illegible]

伊勢集

[illegible]

伊物　未考　上句ハ家持[illegible]業平

[illegible]郭公[illegible]月[illegible]

未考

[illegible]

同

[illegible]

万七

白菅[illegible]

同十二

こよ山に山下とよみ鳴鹿は[illegible]をは待こふつま

同九

こりるま[illegible]鹿鳴なる鳴[illegible]遥[illegible]之

人麿

同十一

ちとやまる[illegible]の[illegible]よませよあ[illegible]

おほ[illegible]の[illegible]

同四 家持

いり[illegible]ふる[illegible]ひ[illegible]

人[illegible]

古雑上 貫之集

[illegible]の[illegible]の[illegible]

未考

[illegible]の[illegible]の[illegible]

万九

[illegible]の[illegible]

やなぎ

万十一

帰[illegible]君と[illegible]

未考

[illegible]音[illegible]白浪乃[illegible]

河[illegible]の今み[illegible]時[illegible]

万十一 人丸集

年[illegible]春雨[illegible]柳[illegible]

未考

[illegible]

[illegible]

[illegible]

万四

[illegible]

ガラス使用

未考
同
同
万四 本四結忘已出
同 笠女郎
同 安部女郎
古今五 讀人不知 本六蜘蛛重出
万十一

人さこゆる葦渡に袖ぬれて猶にあひ見んと思ふ心かれ
追はしと思かれ思ふはなけさてまさる我かの涙
ことにもとなり物思ふ紙見めともかゝる思ひと[illegible]なれ
かさの女郎
「我命あらんかきりは忘めやいや日にけには思ひますとも
あへのやまとゝ比　不審
我宿の夕影草の白露のけぬかにもとな思ほゆるかも
我せこは物なおもひそ事しあらは火にも水にも我なけなくに
今しはと侘にし物をさゝかにの衣にかゝり我をたのむる
人まろ
拾遺五人丸
いのちをもたゆる[illegible]

同
同
後拾四 伊勢 伊勢集 本石寄已出
万十一 本三浪已出
万四
未考
同
同
万十一

ちはやふる神のいかきもこゆる今あらは紙はいはすは我やこふらん
いとゝくやたゆたふよりも[illegible]みるよの[illegible]
秋まてや今はかれにも[illegible]
大海にあらしなふきそ[illegible]よする浪よりも我は[illegible]
ちるかな
後古今三 大伴百代
[illegible]の[illegible]するみ[illegible]
今宵よは我[illegible]
我[illegible]八根川のお[illegible]
天雲のよそに出[illegible]我や今更[illegible]
拾遺四 右近
忘らるゝ身をは思はすちかひてし人の命のをしくもあるかな
かけ[illegible]

貫之集
をしかへす物にあらねは世中は人の心になかめしてまし
つらゆき

同
[illegible]とよる[illegible]物とも[illegible]なは[illegible]て[illegible]
くらかりけむ

古今三 読人不知
[illegible]かくしてあれ[illegible]こそ[illegible]あるらむ[illegible]
よみ人しらす

万七
かきのもと

古今五 読人不知
たまほこの道のゆきかひ[illegible]あれはてゝ[illegible]人のつまことよ

末考
[illegible]のしまの[illegible]人にかゝるらん

万七 上手浄足
つまもあれはてこの[illegible]ゆきをは今こそかうせこかさすつけめ

末考
はなのなかなかしはしては離れちるはかりてそ人にかゝるなる

新古今三 伊勢

[illegible]人のかよふる枕[illegible]枕しは[illegible]

いせ

家
人妻はもりかやしろかからくにのとらふすのへかねてこゝろみん

末考
まむつる[illegible]我は[illegible]てくはしきすかはら

万七
[illegible]のはなやまのはのなかはまつ[illegible]人のつまこと

末考
[illegible]のめくるあらは人妻ゆへに[illegible]あやなき

万一
[illegible]のやまとまつ

同四
[illegible]してうする[illegible]人妻ゆへにわれはあひぬへし

同十
[illegible]つまよゝ[illegible]

末考
[illegible]ある人あはれ[illegible]かなしかるらん

ガラス使用

家童子てかよ

万一
大ともの三つの濱なる（ひある万）忘貝家にある妹を忘れかねつる（てそくや万）
人まろ

万十五 不載
いせの海のあまの釣なはくる時（と）も妹は待〻くあゆみぬる
（万十五 わたつみのおきつなはのりくる時と妹か待らん月はへにつゝ）

万十二 催馬楽 我駒
いてわか駒はやくゆきこせまつち山（催）待らん（人催）妹を行てはや見ん
（ゆうんよ方催今日 ハヤコマニモ 早者欲[illegible]）
家持

同四
ひとへ山（山城）かさなる物を月夜よみ門に出たち（出くち方）妹やまつらん（ら方）

未考
隠凡よけさひとへ出まし若次く待て寝なる
（万九 いろはにほへ[illegible]みをつくし[illegible]けり 大夫すら）

古恋四 読人不知
さむしろに衣かたしき今宵もや我を待らん宇治の橋姫

万四
ひさかたのあまの露霜おきにけり家にある妹（人万）もまちこひぬらん
（此哥大伴郎女の哥なれは郎と有に但妹とあるて[illegible]）

同十九
あま雲のゆきかへりなん物ゆへに思ひそわかする別かなしみ
（くる官　我官　あまのあまにるかはりくすかし官）

未考
す（ぬ）むる妹は又今宵も月しあれは扨や夜待てあるらん

貫之集
いはまそてたゝみちけて家路とほみ（きん）いそきける（さりき）
おもひやりて

古恋一 読人不知 兼方下
恋すれは我身は影となりにけり（そ兼方）さりとて（ろ兼方）人にそはぬものゆへ（ゑ）

未考
我宿にかくもたえてかくも色草はかくのこゝろは我やよみて
（黄連 和名 カクモ　[illegible]かくれのかくも[illegible]）

兄うとも

万四
むかしの妹をせうとも我か（ますら万）いにしへの（むすめ万）我身は（わかみもちるなれ万）

未考
をとゝしの秋の下草（と）後にをわけつゝ待つれる

（古六帖下系）
ぬらくの野の下草やをそふれとたのめてわかれ新（我身）

下くあさくらみのたに
倉あをと[illegible]そ紙くての山の川かやとも（せこえ）[illegible]

以上四そ未考
蝉のなく雲はたゝ（未詳）[illegible]ほかけにや蝉は[illegible]やよめるらん

[illegible]
（在五）
あさかけに我身はなりぬ白雲の絶てきこえぬ人をおもひて
ゆきもやらまし

万二
大舟のとまるとまりのたゆたひに物おもひやせぬ人のこゆへに

同十二
あさかけに我身はなりぬ玉かきるほのかに見えていにし子ゆへに

同十三
[illegible]すまひつれの言にてゆく我身は成ぬ
かさ女郎

同
恋にもそ人はしにするみなせ川下に我やせ月に日にけに
こゝろはしらしよ
石川乃郎女

万二
梓弓ひかはまにまによらめとも後の心をしりかてぬかも

未考
あふ人は[illegible]のあやしきは[illegible]
（読 ワカワカ日本紀 [illegible]女家集）

同
あふ人を下くの道の岸なれや[illegible]

同
まかすてふことはきゝしやあまする君か[illegible]

古恋一 読人しらず
いせの海に釣する海人のうけなれや心ひとつを定かねつる

同 貫之
よしの川[illegible]はやくそ人を思ひそめてし

未考
世中は[illegible]

同 拾遺 法師
うらみすは[illegible]世中はつねなき物と思ひなしてん
（新勅撰四 梓弓ひけはつのつるのつる[illegible]）
（後拾 [illegible]）
まさる

後恋三
淵は瀬になりかはるてふ世中は渡りみてこそしるへかりけれ

万十一
[illegible]

同
里遠み恋わひにけり[illegible]君か心の中はいかなる
くれぬへあさきも

古雑下 読人しらず
（拾遺恋三 読人不知）
今更にとふへき人もおほえす八重むくらして門させりてへ

万七
日四 下句人丸
万四
未考
未考
万二人丸七夕未 古一帖書已出
古六帖有已出
未考
日
万三
未考

（新古今一 是則 …集）うみをこえやまをやまをこゆる節まれにもとてゆけどあかぬ君
はつせのゆふくれ山に雲ゐては雨そふるてふかへりこ我せこ
出てあはれなる物思ふあまにはもなくこそありけれ
義作や谷の東のさき山にてのいはやにて君は待らむ
うはむすびし海の今宵さへかくこそ見れ人のゆくさて
はるかなる海まてきつるかゝれかくいかてかゝるへき
夕霧に衣はぬれて草枕たびねするかもあはぬ君ゆゑ
（古一雑月 いつしかと…月の光のまへ…）君をのみ思ひつゝ月をみていつてはかなき海のおもかけ
（後）月影はいさよふとしもなけれともいさよひくるをまつかな
（古今月）うばたまの夜の梢をてまねくかけてきみかなくも物を
有明の月の光をまつほどにわがよのいたくふけにけるかな

万葉家持
未考
家 古今三 後雑上貫之 貫之集
日 家 伊勢
日 家 古一帖 有明已出
古今三 読人不知 伊勢

人まろ
独ぬる物にしあらはすゑの松なみのこゆともたゆまさらなむ
ゆめかよふ外山の月のかけになほかくてもまたれけるかな（古今 …かくてもまたれけるかな…）
あかつきの明かたの月のかけならで人をまつにはわすれさる
ただみね
みるまゝに秋の夜ふかくなりゆけはあまのはらにてきえぬる
有明のつれなくみえし別れよりあかつきばかりうき物はなし
人まろ（作者不定）
いつみよめてたのめる物ゆゑにみえしはかりのまくらならなむ

万葉十　人麿歌

梅は花咲てちりぬとおもふ今まそ桜咲くあらなむ

人まろ

なかりけり

古今之　伊勢　亭子院歌合

楳のくよたちよりけし袖の袖にまてあまてある風そひらまする（こし　古石）

貫之

拾遺集　後撰二　忠岑　亭子院歌合

住の江乃松まちてる白波のかけて高砂やねなくらん（とう後　とう　はるかなる後）

人まろ

万十一　人麿歌集思

あさかしはぬるや河邊乃東雲に人をあひ見ぬきそもあかねつ（さ　万四佐　あはしきこゝまてさゝしし万　あくひきうし　公無勝）

人まろ

円

ゆきゆきてあはぬ妹ゆゑ久方の天の露霜にぬれにけるかも（けて万　行万今好　名　又万　たこ万）

人まろ

円四

うちへる紀袖くひ人八かもたれゆゑ狸家ふかくもとにへい

万十　伊勢主詩

拾遺三恋人　新古今三　藤原雅成

我背子をはゝみ山乃峰よゐる君かたのむ夜の更あらし（万四　さとしまれて新　おなし万）

まてとひとりまてかね長月の有明の月を人まつと（人まつとく哲　とこ万　刀尓石）

あら人まれ女郎宗

伊勢

家　古雑上

水の面よつる月君まては宮をこそまちとは（上結）

まてといひてたへかねてにせぬ夜を世にあまそて雨をふるらん（まてといひてまちかね　と万　え）

末考

万四　上雅本寄之女

夜へてあけてある袖の月しあまり更にかのあるにまてかけて（おしまちかね月しあまるか　伊母歴昭　かなしく万）

日十九

拾雑春僧正遍昭

さよふけま島ははるくもかくけふる白雲に君はまさあや（け官　紀ふ万　世官）

まてをはるくもかしこし我山ふしとなりん花見ねる

人まろ

万十一

なる紅葉ともまとちらそ中くもの雨ふかるらん君をそまん（のちくしとようて万　の万　いや万　かくるらん万）

未考
古恋四　読人不知
後冬
未考　古六帖用之
古雑体　読人不知
未考
万十二
未考

今はるからしちるまて我せこそ鏡あさとるみたこゝしとおもふ
いてましをて

まてといはゝねてもゆかなむしひて行駒のあしおれまへのたな
[illegible]

後　しひて行駒の足をる橋をたになとわかやとにわたさゝるらん

紅葉ゝと時雨に濡まてかたしく人[illegible]やとてあゆ

まてしはし人[illegible]

出て行人をとゝめんよしなきにとなりのかたにはなもひぬかな

まれつるはあまたあれと駒やなつめは[illegible]すきはあれこそては逢
名残也

拾恋四　ゆるきの[illegible]

はなみなまことゝ[illegible]この杜の名残ありとも[illegible]恋つゝそある

いその神[illegible]雲の心[illegible]

古　かくしつゝ世をやつくさんたかさこのをのへにたてる松ならなくに

同
同
後恋三　元良親王
万十一　作者未詳
古恋三　[illegible]
万四　大伴坂上大娘
同二
下玉匣王女
古恋三　平貞文

いその神名をそへ[illegible]

いその神[illegible]

津の国の[illegible]

[illegible]

我名はもちなのいほなにたちぬとも君か名たゝはをしとこそなけ

玉くしけおほふをやすみあけてゆかは君か名はあれとわか名しをしも

白河のしらすともいはし底清みなかれて世ゝにすまんと思へは

古雑体　興風
なにかその名のたつことのをしからんしりてまとふは我ひとりかは

万十一
あ[illegible]人の[illegible]

日四
今よりは名のをしけくも我はなし妹によりてはちへにたつとも

（後拾恋一　人丸）（新和恋三　又敦忠集）
おもふ名[illegible]

万十一
まのゝ池のこ菅をかさにぬはすして人のとをなをたつへき物か

未考
な[illegible]

古恋三
人はいさ我はなき名の惜けれは昔も今もしらすとをいはん

未考
立田[illegible]

万十一
い[illegible]

後撰二　伊勢集
吹風は下のちりにもあらなくにさもたちやすき我無き名かな

未考
大[illegible]

古恋三　御春有助
あやなくてまたきなき名の立田川わたらてやまん物ならなくに

未考
なき名[illegible]

後撰之　貫之集　貫之
か[illegible]

わきもこ

日本紀十二
眞[illegible]

万四
あま雲のよそにみしよりわきもこに心もみさへよりにし物を

日
い[illegible]
家持

月
[illegible]

日
佐伯東人
赤人
万七
未考
万十二 柿本人丸歌云
万十一
日一
未考

草の枕旅にひさしく成ぬれは君をこそ思へこひそわきもこ（あれ万）（あこひそわきも万）
見川ね
花よりは神さへにあらてわきもこか宿の桜をえこそをらね
妹かあたりわか袖ふらん木間より出こん月に雲なたなひき（くる万）（な万）
今更に妹にあはめやと思へはかこゝら胸のいふせかるらん
たらちねの親のかふこのまゆこもりいふせくもあるか妹にあはすて（拾遺四人丸）（ははか万）
人まろ
百世まて千世まていきてあらめやも我思ふ妹を置て歎かん（し万）（し万）
わたつ海の沖の白波立田山いつか越なん妹かあたりみん（海底今按 ワタツミ）（つ万）（なん万）
山のはに出る月をもまちかねて妹かゆくらんみまくほしさに
人まろ

万十五ニ載
万十一 上遺使ニ出
未考
万十二
同
同
同二
同十
日本紀巻十三 允恭紀
古今四 賦家

旅にあれと夜は火ともし居るわれを闇にや妹か恋つゝあるらん（こひつゝあるらん万）
むかしこそよそにも見しかわきもこをあひみて後そこひしかりける
ひとりすみわかゆゑにかく恋しきは妹にあはすてとしのへぬれは（万四 坂上郎女 刀自と云々 此和と古今…）
白妙の袖はまよひぬわきもこか家のあたりをやますふりしに（よ）（まよひくの官）
たまもかる波のよるかはあはてをる妹はこひつゝありといはなくに（かへ）（こゝろ官）
妹かめの見まく今そ我思ふ妹かめのみえぬ時こそ恋しかりけれ（こ万）（えこそ万）
東路の荷向の箱の荷の緒にも妹は心にのりにけるかも（人万）（荷向をのさきと可訓）
し今もみまくそほしき秋萩のしなひにあらん妹か姿を（いさゝめに今もみまくそほしき万）（孝今按）

わかせこ
さかのうへ
我せこかくへき宵なりさゝかにのくものふるまひかねてしるしも（かこよひこよひ 允恭紀）
そとほり姫

ガラス使用

同
佐伯東人
家持
万七
未考
万廿二
市原親王出
万十一
同一
未考

[illegible]

万廿家持歟
万十一
上道使出
未考
万十二
同
同
同二
同十
日本紀卅ノ十三
名寄記
古今四
賦分

[illegible]

東路乃荷向乃はこの荷のをにも妹か心はのりにけるかも

[illegible]

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『古今和歌六帖 6巻』 請求記号 830-181
ガラス使用　挟み込み物

万四

赤考 衣四帖 付出

我せこしとけんといひし人をはしけくみえてもあはましを

我背子か面影山のさか[illegible]にわれのみこひくらす[illegible]

かさの女郎

[illegible]人

万十一 人丸集出

我背子に我恋ゐれは我宿の[illegible]

同四

音のみを[illegible]我せこにあはす[illegible]

赤考

おもふらん[illegible]我せこに[illegible]

万十 赤三帖 [illegible] 下秋夜 三字出

我背子か[illegible]

かくれつま

万十一

[illegible]心のうちに[illegible]かくれ妻はも

同

[illegible]かくれつま

同

あめつちや[illegible]かくれつま

同十九 赤二帖 雜出

まそ鏡[illegible]

同八

[illegible]かくれ妻

同十

[illegible]かくれつま

同十一 赤三帖 関已出

[illegible]かくれつま

伊勢 業平

[illegible]

万七

[illegible]

赤考

[illegible]

万七

[illegible]

ガラス使用

口四
家
万四
未考
家
古春下 読人しらず 注橘清友 古六帖 歌ありつき
後恋五 なりひら
伊勢
未考
古恋一 読人しらず
万四
未考
口
口

よ月そむかしもあかなく命なれてなそかくそかり紙無流る

いせ

ちりぬとも(?)はなをとめて雲路にてとはんとそ思ふ（之）

かさの女郎

伊勢の海乃磯もとゝろによる浪のかしこき人に恋渡るかな（よするなミ古）（かも古）

藤衣あつるそなけるさる浦のよるなきの身をもしるとしらすや

貫之

（拾恋三 貫之）照月も影乃底にうつりけり似たる物なき恋もするかな

今ハかひなし

蛙鳴ゐての山吹ちりにけりかはつあそこは花の盛を（花のさかりにあハましものを 古 古六帖）

ありく

（大和物語）い勢の海乃ちひろの濱にひろふとも今ハ何てふかひかあるへき（あるてふかひかあるへき 後）

（新古今 読人不知）山城乃ゐてのたま水手にくみてたのみしかひもなき世なりけり（むすひ 伊勢）（ミ 新古 伊勢）

まろねの夢は新しとそみえし今をもてこそうつゝなりけれ

よんよ

ゑうの女王

此世にハ人とむまれしかひもなくかくしてそ今ゆきをとる（こゝろせさ 古）

あはれともまたや成なんなけきつゝ難面人と音をもなくらん

うつせみの世にあふ事のかたけれは中々に絶やまてもや

（拾恋十九 にうき世にいつまてかハあそて浄土のあまりかつ）此世にて君をみるめのかたからはこん世のあまとなりてかつかん

そしうき

此世にてあふ事成なハこん世まてはかなくかけて西の浄土よ

あしつうつ

かのこの女郎

万四 上今憑之
後新二 読人不知
赤人
古今四 [illegible]
興風集 古今四 興風
同 読人不知
同雑上 伊勢 読人不知 業平
後恋中 伊勢集 読人不知
同

新かりこしつらのくせあらむ花[illegible]

[illegible]

雪[illegible]

今[illegible]

（此作者當在上奇前）

[illegible]

あかてこそおもはむなかははなれなめそをたにのちのわすれかたみに

[illegible]

いせ

土佐記
古春上 読人不知
業平
未考
[illegible]
同
万四 上思異人乙訖

忘貝ひろひしもせし白玉をこふるをたにもかたみとおもはむ

貫之

梅か香を袖にうつしてとゝめたらは春はすくともかたみならまし

[illegible]

いせ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ガラス使用

万二 上鏡王女

玉くしけおほふをやすみあけていなは君か名はあれとわかなしをしも

（てゆかハ古　君か名はあれとわか名こそをしけれ）

丹後國風土記

みつのえの浦嶋の子か玉くしけあけさらませは妹にあはまし

（秋日本紀第十二引丹後國風土記 彼云後時人追加云云）（ゆくハ上臈名）（てそあらませハまたもあハまし 風土）

未考

匂ひけると人のわするゝ常世なる花のくしけに

伊勢集 九条右大臣

みなれしのかゝみとせし常世なる花のくしけはあけてこそみめ

（後の伊勢か歌のあまりく）（大 伊せ集）（そも）

未考

向むけし剣のはてを待たにむかしくしけあけくれハなし

ゆきの大君

万三

あまはしや神のまへの妹と玉くしけ物へ人見し人宿君

古今三 読人しらす

玉匣あけハ君か名たちぬへみ夜ふかくこしを人見けんかも

（夜ふかく古）

貫之

貫之集

釼てもゝつゝ後ハ玉匣あけくれ見んつゝ三たひかへ

（玉篇 読人不知）（貫之集云 ありあけの中よりあつくの……）（壬生小一条左大臣……）

みほね

家持し

玉匣あけゆくそらのかなしきは心しらすもあかつきのつる

（古今三 いせのあまにまかりて……）

伊勢

家

君かくしけ（平兼盛集上……）

むかしをしらぬ常のくしけは花のくしけの

伊勢集

井さつくしけやむかしてよりむかしのくしけ

むかしの

いせ

門　寄　机枕ふるき

色くつみしからし恋しむ今のくしけに

（むろつりわりくろことをましハ家）（次の歌のあとくし）

伊勢

後撰四 家持し

よふけへくかけみえまゝむかしつくるへく

（ほとつても後）（つきあしも後）（め後）

万十

ますくくなりのうらはかて待るさとかみのかるかさ

坂上の大娘

万八
同
万十
同二
同十二
万廿五家持
万廿一
赤人

秋まけるわか宿にはなかるゝかつらきの山の色つけ

やかもち

わきもこにわかこひわたる秋萩の花さくほとにあはぬ日はなし

かやん

うらむ比妹か家路にかよひしや秋の野原に名のりてあらん

あかつきとなくなるしかの秋萩に置く露の玉まてよ

うらむ比妹か思ひてさき秋の花の名をこそ妹かしらんら

人まろ

後にかく春にはあはんすむ秋萩に雪かゝりても

おほかたは秋の心にうつろふも秋萩にあらめてやみなん

秋をしのふかにはうつろふまても人はあきまたつ

家持冬 赤人家
赤人家集
万四 田部櫟子
上野同上
同十一
万二
同十一 人丸集
万二
古今四 読人不知
赤人家集

そつね

思ふ事ありて秋萩かはれこそ今秋の露におくをとる

ちらむ比妹か家路にゆくみちの露にぬれつゝ秋の野を

うらむ比秋の思ひ萩にあかしみをさてそこにたえて

あきのゝ花すすき見てこそ秋思ふ萩のさけはなかれ

たゝ見はあはれともなくさむる妹かかたみと思ひつゝ見ん

朝ひらく秋萩ひかりみしかきを人にもかなくしもの秋

よとゆん

秋はきにおくしら露のあきまてに見まくはなれん

君をはなれてのちにうき秋をゆふきのまにうつりにけり

く

万九
門四 上女之良[illegible]
伊物 新古雑中 業平
万九 人まろ
門十一
後新一 大江玉淵女
古恋二 安部清行
[illegible]
万三
万三

君[illegible]とはなそ身はつく[illegible]あるゝ[illegible]とかゝらんと

しら玉[illegible]けるうむ[illegible]今もおもふ[illegible]

芦の屋のなたの塩やきいとまなみつけのをくしもさゝすきにけり

秋[illegible]あるらん[illegible]ゆかし[illegible]

人まろ

[illegible]何とも[illegible]

[illegible]何ともあらぬ[illegible]の[illegible]

[illegible]

一日にはちへ浪しきにおもへともなそ其玉のてにまきかたき

[illegible]袖[illegible]白玉は人[illegible]

人[illegible]

古雑上
万十一 不知何
万七
門九 作者未詳
後春上 伊勢
伊勢集
古雑上 業平
伊物
[illegible]
未考
門
門

ぬしや誰とへと白玉いはなくにさらはなへてやあはれとおもはん

かはらの大臣

わ[illegible]

新勅撰恋三 続後撰恋三

あ[illegible]

大寶元年辛丑冬十月太上天皇大行天皇幸紀伊國時歌 後注云右一首上見既畢上云右作者未詳

文武天皇

妹かためわか玉もとむおきへなる白玉よせこおきつしら浪

白玉をつゝむ袖のみなかるゝは[illegible]

ぬきとむる人こそあるらし白玉のまなくもちるか袖のせはきに

君と[illegible]袖に[illegible]

く[illegible]白玉[illegible]

[illegible]

ガラス使用

万七
同
同四
同七
万十一
同
赤人哉

人まろ
わたつ海乃てにまきもたる玉ゆへにいそのうらわにかつきする哉
ひとまろ
わたつ海乃もてる白玉見まくほり千たひそつけしかつきするあま
[illegible]妹かために[illegible]とらん
[illegible]妹か[illegible]真白玉
たむらの代
むは玉乃[illegible]を[illegible]妹か家[illegible]して
むは玉の[illegible]又もあはすして
つらゆき
むはたまのよるふけて行はひさきおふるきよき河原に千鳥しはなく

赤人
同
古今三　読人不知
赤人哉
家　古今二　きよ
万四　伊勢
同十一　作者未詳
古今一　読人不知

むは玉の夜[illegible]心もとなく[illegible]流るる月[illegible]まて
かつ[illegible]かつハ[illegible]むは玉の夜[illegible]
あ[illegible]吉野[illegible]川の[illegible]
つらゆき
むは玉の[illegible]命かな
[illegible]命[illegible]思ふにむは玉の[illegible]
たまき
きの女郎
むは玉の[illegible]
むは玉の[illegible]月乃[illegible]妹[illegible]
か[illegible]行[illegible]

ガラス使用

万十一　同　貫之集　万十二　家 古恋三　未考　古雑作読人不知　同　万七

いまさらに[illegible]ひもの緒て[illegible]

[illegible]すゑ[illegible]

[illegible]

[illegible]今はむすびし[illegible]のをも[illegible]

[illegible]

下ひもの[illegible]の緒てこふる人[illegible]

たか[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

万十一　同四　同十二 作者未詳　未考　万十九　後撰[illegible]　同 読人不知　[illegible]集

かゞみ　元

まそ鏡[illegible]

まそ鏡[illegible]心をゆるしては後にいふともしるしあらめや

坂上郎女

[illegible]

ひとまろ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

万十一　末考

寒き夜に衾の中にも恋しきはわれもあ（みえこそ万）
かくこゝろかくのみ恋ひは枕のみ

古恋四　かくこころ今ハあらくあれ…ハこまし…かのそ

古恋一　読人不知

我恋を人しるらめやしきたへの（八古）（しきたへの古）枕のみこそしらはしるらめ

同恋三　貞文

枕より又しる人もなき恋を涙せきあへす
もらしつるかな

万四

（新古恋二　読人不知）
しき妙の枕ゆくゝる（従万）（まくる イ信）涙にそうきねをしける恋のしけきに（け万）

同　作者未詳

いにしへに（いくそたく万）妹と（ひけめ万）（とろ信）（女の名なれハ妹ハ誤之）わか見し枕のとゝにみえつゝ（ゆろ信）

古恋一　読人不知

夕々に（よひよひ）枕さためんかたもなしいかにねし夜か夢にみえけん

万四

人寝るめしは（かり万）ねすてはしきやしかつゝも枕と我はいさふたりねん

人すく

同十一　作者未詳

（続古今恋四　人丸）
妹か袖まきもてぬし夜の枕とりかへて寝ん人もあらなくに（か）

末考

（夫木卅四　読人不知）（くろうらハ山城ニアリ　陸奥ニモ同名在之）
みちのくのくろうら山のいはねにも枕をさためむ君にもあらなくに

万十一

しきたへの枕のこゝろ人しれすぬる夜ひとりやあらんものから

末考

枕なる心ハしらしすむ人の枕ハ君によりてぬる

同

人しれぬ我恋なれハ衣手もさえのみ枕に恋つゝそぬる

同

（拾雑恋　読人不知　わするれやあかつきの枕のうきてとみえしつゝらん）
（拾恋五　ひとりねの神の涌ハいくそありとも　枕さためてふる人ハ）
独ねの床にたまれる涙には石の枕もうきぬへらなり

伊勢物　業平
新勅恋四…

（新勅撰業平）
枕とて草ひきむすふ（むすひて　万）こともせし秋の夜とたにたのまれなくに

万十

まゆそとてゆふへの秋の夜（そる）のかるゝ草の枕の床（し万）我ハ

末考

（自是以下むすふ）
露のみて袖（イ言あたハ元）ぬるゝよ我恋の衣手枕せよとまし

万十一

（此哥の下の句枕まきとて下人丸の上にあり）
ゆふ月も見ぬ夜をあかしまくらの我（か）（よ）枕まくらけぬなかるも

千度くら

未考　万十一　同　同三　同六　未考　万十一 仙云未詳 千四 仙新思已出　万十

紀乃やはほのあれなるまてにいくよか手枕まくらんとそれゆめまふ

まるかひし紐をときすくれはいん此手枕まらんとゆふよ（ともすれら 万）（と官）（とむまきそねゆらん 万）

今更に君か手枕まきねめや紐下ひもおとけつゝもとれ（ひものをの 万）

（たもとかは 信）ふ清く見し人此まきてし衣の紐をたれかとかまや（いも 万）

を須るゝハ無ひゆまゝしもゆきて君か手枕まくらすてをと（之倍りにあるりともに）

わかまつこゝろあかぬ宵ハさらにほしのまくらか手枕をそれ（の官）

（上ノ枕ヒリ　ひりの字在此）

かくてあふあひの袖をとおもはれハ妹か手枕まきぬ夜もあらし（たかとそ 万）

まくら　ひとたけ

あしまてもなきゆく織機ハ君か衣よふくとてたまふ（新勅春上 家集 ぬ戴）（そと 万）（こけしらぬひあへむらも 万）

はかなくもおもふをかけてうちもさむ袖ほしかねつゝこやさへてみれ（おも 新勅 夫木）（あら 新勅）（夫木 後撰 天武紀下 持統紀）（夫木卅三 拾芥 家集 うすくさりかの夜はふけにけり）

後撰　万十　同　未考　同　同　万七　同　同十一　同七

こ川ひま秋白露そへつゝなる織女ハたゝや我されん（さと後）

秋風の吹たゝよはす白雲ハ織女の天つひれかも（いひ色 万）（すつ官）

七夕ハ我待そてくる卯秋の秋にこそあれなるらん（秋え 万）（お）

よそにあまねふ身とそ思ふ君か織てハ君かあり（よそとかうそれつくすなハ七夕の院のむのそとやらうらん愛之）（とそ）

ひこ星待しなのか旗の山そとて風ゆきてうちかたるらん（お）

ぞそしふゆに思そみそ逢あつべくひとしくとふほとめ見え（いこ川え）

あらし

紀乃浅そぬに紀下のきてうゝき衣まるさうらひさもきれ（めつら 万 今ミ多）（こころさ 万）

ほ川くるまてくし織の物をまそかゝり道まかな秋をいまきれ（官 こころもハゑつきてる）（夫木卅三ナレ）（面）（造）

永ほ我にあひなんとゆくまてにや君か面こそあらん（き川ゝや 官）（おかりひらきれぬ 官）（たる 万）

たなはたの袖ふよひのあかすそてあひ新とれ

ガラス使用

門十一

かり薦乃しかおもれあさ礼くたちとふすまをきましめつし

末考

ひとしれぬ床にあかれはかの袖ひちぬあかぬよなよな

万十一

あさねもていつる人は袖乃吹かゑし袖をみるの紙

門十四

ゆふされはかねも世にあれと衣を寝てしあらはあり

門中八

旅人のやとりせむのに(?)はあかぬかよ妹かゝ(?)をのこそ

門

はるやなかにはあるかけれあれとよ妹しあかくよ

末考

さ夜中に我はあかれてかゝるかのとけすみ

あまれ

家
古恋二

いとせめてこひしき時はむはたまのよるの衣をかへしてそきる

末考

わかせこかきれとひかふれはかりのそのまえあさのすそ

古恋二

はるかすみ涙かゝるをこひ袖はしほれはしまぬ

清ゆき

家
古恋四

をしみ寝乃やまとふゆはあかぬ衣をあさまたてあらひまかつ

門雑上返し小町

世をそむく苔の衣はたゝひとへかさねはうとしいさふたりねん

末考

白妙の衣乃袖をかたみにておもひねなきかへるあふよも

ともゆき

家
古恋二

よひよひにぬきてわかぬるかり衣かけておもはぬ時のまもなし

人まろ

万十一

白妙の袖をかへつゝみるらむそかへす夜の衣はなにそあへぬ

むかし見るあさゆふたちの君かそのかなしき

万十一

朝ねかみ中うつしもとめてかくれ夜ふかく衣をきてこそはくゝ

三

貫之集
[illegible]

万七

万十三

古恋五 読人不知

万十一

未考

読人不知集

後恋三 躬恒
躬恒集 不載

貫之集 不載
万六 [illegible]

（新古 [illegible] 貫之）
[illegible]人は[illegible]中[illegible]けて[illegible]
侍るを見て[illegible]人は[illegible]とき[illegible]
つるを見て[illegible]世の[illegible]君が[illegible]ぬ

塩やき衣

いせのあまの塩やき衣[illegible]あれや[illegible]
[illegible]のあまの塩やき衣[illegible]
いせのうみの塩やき[illegible]なれて[illegible]
（新古恋三）[illegible]
いせの海塩やく[illegible]
すまの[illegible]
いせの海の塩焼あまのたえ[illegible]一日も君[illegible]

流れゆき

万十 作者未詳
人丸集

未考

[illegible]

未考

古秋上 読人不知
[illegible]躬恒

未考

後秋中 読人不知
業平

夏衣

（新古恋五 人丸）
夏草[illegible]きぬものを[illegible]
（秋恋三 読人不知）
夏衣[illegible]
夏衣[illegible]

貫之

夏衣[illegible]
[illegible]

蝉の羽

[illegible]
蝉の羽[illegible]
秋の夜[illegible]月の[illegible]

ガラス使用

未考

万十 未句旅人 上我方子已出

貫之集

家之歌

貫之集

はおやいつゝ川風のさむみよそ衣かさん我妻もかな
わきもこか衣の袖を秋風に吹かへしつゝ下にみえしまつ（いきあへあへるさん右）（た）

衣打　　　　つらゆき

（拾秋 貫之）風さむみ我から衣うつ時そ萩の下葉もうつろひにける（色まさりける 貫之集）

素性

（新勅秋下 貫之）わひ人のいへゝはまて衣うつなる声のあはれなるかな（しるける 家朗新勅）

（朗詠）から衣うつ声きけは月清みまたねぬ人をそらにしるかな
つらゆき

（新古旅 貫之）草枕夕風さむく成にけり衣うつなる宿やからまし（よるり 新古）（る 新古）
おなし

（新古秋下）雁なきて吹風さむみから衣君待かてにうたぬ夜そなき（ま 新古）（夜は 新古）

後春上読人家

家流し

伊勢

万十一

同七

古今四 河原左大臣

伊物今日

かりの衣

吹風にちらてもあらん梅花我かりの衣一よやとさん（梅の 宮）
ねむころにさひしき人をみるからにかりの衣はなれてそ行（さ）（と信）

右許河の行幸に社中納言かゝれる露にほさる
貫之

（夫木卅六 之家集 貫之）（これ 類）かゝる心あるへき人をまつ程に衣はかりそさしてかへる（さ 夫）（かへ 夫）

すり衣

（新古恋一 業平）春日野の若紫のすり衣しのふのみたれかきりしられす

すり衣きると夢にみつうつゝにはいつれの人のことかしけゝん

（新千秋下 人丸）（のゝ）住吉のとを里をのゝ萩もてすれる衣のさかりすきゆく（まはきとハ真榛と書てはりの木にてすると萩の花すりとくのまちかく）（さき）

みちのくのしのふもちすり誰ゆへにみたれ初にし我ならなくに（むとおもふ）

下句古今ハ乱れそめにしとあり 又乱れんとおもふと云意也 又ハ乱れ初しと云ひ初ると云又ハ此也 万葉十四
あつまの伊香保のねろにふる雪の行すきかてぬ妹か家のあたりと云 又か 此歌も乱れそめにしや此歌も乱れそめにしか今そしるへし

万七　夫木寄人已出

万七

门

门

万九

未考

门

あさてこふすま

あふみする漣し女紐ゝにやあ道にぬれかせとかへりませ（拾雑上人丸）

くれなゐのあさはのゝらにかるくさのつかのまもわすれなと麿記（大和物語のうちあさこそ万）

あさ新鴻の私あきぬか乃まも紙流の乱ぬらん（八万）

今作者とて人麿とせるは誤之　万葉に落涙之歌作者也御作者御名御乃御人麿前之

麻衣きれはなつかし紀の国の妹背の山にあさまくわきも（あさかまけわきもこ万）

人麿卿

めくしへにふる夜をゆもやかにあみときとへ待人

かさくろし

あさ衣をしらま

君にゆあひあれあ道衣新まつにるかせとひくらし

右二首八級首の也

むまるてあゆかかめあ道衣紙かきんとそくらめへのぬくりみ

门

门

万一　九日巳出

未考

後雑三　読人不知　伊勢集

みゝかめ人はまもとうる道にはいとひてもあしもかゆるく（注云ぬれきぬのきぬかさひよあひ今よりきぬぬれきぬ中なり）

とくさあるもよとれ道衣にあゆ下にあてきせるら

あ道にし人にとしの菊乃露にもひしみそ衣しなりて

余命そもかくかへしてたになもあ道衣にきる（君之集君着る打着の衣とかはめとぬれきぬところの着きれ）

よそしまにぬれ衣のみ道衣と成袖はわかなかまするよ

雜乃衣

古今　読人不知

都いてゝけふみかの原泉河川風寒し衣かせやま

未考

今更よ山にも君にあはんとも衣を今よ尋ねそは（万十二　今よりはおとに妹かあはぬやところのへさらひまうえしとどろ出あひの誤れ）

向しより妹か衣に梅の花のうつりかそわすれかねつる（拾春多之）（色にに香をし拾）

未考

空にのみあかれし羽衣きてもつゝきぬかはかくれましゝ

後拾上　読人不知

梅花香をふきかくる春風に衣をそめは人やとかめん（かくる後）

万四　同十四　同　万十一　同　同 上晩記已出　同　同十二

ゆをとり

あかめさ夜なく心ゝ下ふねうらゝし妹とし待へるゝ宮ゝれ（むしろよ　英被英ヵ　せ万官　し万官）

はにゝたつあさてこふすま今宵さへ妻よしこせぬあさてこふすま（被今按　まゝ官　し万官　せ剣　ね万）

まへるまくふとく夜はわきさわいつみまうもの妹ゆとふふ（とさしみ官）

帯紐

ゝてもゝひぬてもそゝあ結ひあつもゝゝ見れいふみせくゝ紙（新勅恋四読人不知　さてそ万）

山ゝの白ゝる妹ゝを結てゝ糸あつとれすゝうまみやゝへ（ら官　つゝよ万）

人めかる君ゆゑみてや紙とまふゑやあひぬてもれとそあゝそ（つ万）

人まろ

まをしやゝはくめとゆゝはいつふふ注何のせゝま書ゝそれゝゆゝそ

いかゝかんいのゆめかわまゝ（ゝ）書ゝさゝ結ゝ絹ゝゝかん（ゝけ万　わさ）

後雑一 黒主　古恋五 読人不知　日本紀 允恭天皇　未考　古恋一 読人不知　未考　万并 家持　未考　同

わかきみよへとかれなかれとさん真津ゝ藤紙ゝゝ結ゝて（大和物語）

ひとと

いそまもまもあさんかゝれやゆきそぬゝくるゝ下紐

ささらかたにしきのひもをときさけてあまたはねすにたゝひとよのみ（と日本紀）

下ひもゝゆふかけてしぬつまにあひたるゝ人のとまゝゆ（いと）

ゝあさゝゝゝてあつまゝくゝゝはまゝゝゝゝけしゝかゝそてん（いと俗をかりてふるまくてやるゝとこそつるにせん 校頃女集　え　吐土島 龍前）

まかむれよるのとひゝとけてねよ紙ゝるゝねにゝゝそそてそえ（小町集又小大君集よりくのみのむ ひゝゝあゝゝゝゝゝゝゝ　ひ）

人まろ

真ゝ山れを見てまゝゝまゝ妹の結ひひてゝゝゝゝるや（ゝゝ迷子ゝひゝさと解てゝゝゝゝあゝれ）（東）

下紐ゝとけてや何まゝあゝむ結のゝゝゝゝゝゝゝ見ゝ通ゝ（さて結森かりゝとへ何をゝ又さゝゝゝるゝしりくのあゝとゝゝゝしゝゝん）

なそ人のかまてつゝまゝ紙下紐の山はゆゝんとふ見てゝ細と

万十一 下帰之土
六二帖 垣穂己出
後恋三 元方
伊四 業平
日和 左家和
日和 後人之家
未考
同
古恋四 読人不知
未考
同
万九

かきほなす人はいへとも[illegible]紐ときあけし君ならなくに

恋しとは[illegible]下紐のとけん[illegible]人はそれとしらなん

下紐のしるしとするもとけなくにかたるかことはこひすそあるへき

草枕[illegible]紐[illegible]

我[illegible]下紐のとけ[illegible]

[illegible]下紐のとけつゝあるらん

人丸

我[illegible]下紐[illegible]

[illegible]今宵[illegible]

[illegible]紐[illegible]

右一首

家持

撰者集云高橋虫丸哥集中出

家之歌
家
未考
家 古別
万十一 作者未詳

貫之

山里[illegible]下紐[illegible]くらん

六帖ニて[illegible]下句同

[illegible]

あけて[illegible]紐[illegible]

なりひら

[illegible]下紐[illegible]妻[illegible]

[illegible]

下紐[illegible]

新古恋一 読人不知

[illegible]下紐[illegible]

やかもち

[illegible]紐[illegible]

人丸

同十三

以上四首未考

未考

古今四 典侍藤原因香

未考

ちかひの花も世にありとしれは我宿にのみ夕ひとへん

ひとり（和名十一漢劉向有薫爐銘薫炉比度利方言注火籠彡殿毛乃々古今薫炉之）

よそにのみかくこゆにふれ乃ひとをかはりて君をまつらん

たき物乃この下爐にかくれてもわれにはこひしきものやは

岩乃下よりひとつなき僶しう焼のまゝ人てとう雪（す 夫木廿二）

我こひはまつよりふるまゝおもひねたさもあふときは（さ 夫木廿二）

からゑ

（後撰恋三読人不知）露そらかたのあさけすん宿にとまる露にあらて

澤をこて身よりもまさるおもひ紙はなれてはたけかたん（一本 今は持たぬ古記）

たのめしは此世てん我身はるはいかにあかし

旅ねしてうつゝもちりまさりけるとみのそてはゆきにほる紀（下江のおく 袖とも吹いるすしとおきそんの色まさるらん）

同

同

同

未考

後撰雑二元良親王

以上四首未考

松かせに言はふきくるさも毎はふきもやそしなれ

ふえ

（新拾遺三読人不知）世中に絶て久しきなりにけりなのめてもみゆるむ後と

（新撰六帖）むつましきてる物紙旅風はかくるとかへるとなくきて（万四又六 風そよくされはなかれてはなかくかけん）

打しるき浪やまつらん濱千鳥かなのみこゝうとなき

人しれぬ思ひをさそふむ笛まよひそひつのつきの紙

谷近き杉やまひく今見もあくなくる紙ゑをまさらか（万八 さくらのみ里になかけきをしきはなさきゆかりのそ）

やまとにはなきても人もおもはなん心よそにてみせらなん

花ちるとなやおもふて鶯のつとはてうみを縁にそわふる

かはつなくゐてのやまふきちりにけり花のさかりにあはましものを

むつましきそのふりに紙おもはまたうへなかれてもしなれ

古雑下 読人不知

忘られん時しのへとそ濱千鳥ゆくゑもしらぬあとをとゝむる

いせ

同

水くき[illegible]

貫之

同

[illegible]濱千鳥跡をつけて[illegible]

伊衡

後春下 読人不知

[illegible]

太政大臣貞信公

後賀

君かためいはふ心のふかけれはひしりの御代のあとならへとて

右天暦皇帝。皇子時。貞信公家小御渡還給時奉御手本云（天暦皇帝皇子時）

同

御返し

をしへおくことたかはすはゆくすゑの道遠くとも跡はまとはし

御製

未考

[illegible]

万七

[illegible]

古恋二 忠岑

秋風にかきなす琴の聲にさへはかなく人の恋しかるらん

未考

[illegible]

同

[illegible]

同

[illegible]

[illegible]

後交

[illegible]

古雑上　素性法師

新勅　人

むつはのゆめのあとゐてかはぬかはゐしとゝめる袖やぬれつゝ
秋まそてかきなれるかたはこいたはれとかきなて風そひくなる

物名　安部清行

浪の音のけさからことにきこゆるは春のしらへやあらたまるらん

拾雑上　斎宮女御

琴の音に峯の松風かよふらしいつれのをよりしらへそめけん

万七

ことゝれはなけきさきたつけたしくもことのしたひにつまやかくれる
はゆき

家

ことの音をおきしらへつゝ月影と秋の音をもしらへつるかな
おもし

伊勢集　中務宮　故

醍醐帝三代明同帝六　式明両親王共中務卿　帝十六兼明亦中務卿

拾遺　いふよ深き又…　ときく人なし　伊勢集　故中務の宮のまへにて

長秋乃秋のしらへといふことに君かひくをもきゝつる
あけり琴はまたひきもなかりけるものをいかにかはしらめ
いせ
ゆし

中務宮　又

なきてとふ人もなけれとあはれまたことのねにのみかよふらん

貫之集　風雅上貫之

山河の音にまかふる松風は滝のいとをやすけてひくらん

万五

やまと琴の歌よみたりてよめる
いかならん日のときにかもこゑしらん人のひさのうへわかまくらせん
はしめて琴ひくにあはせて中衛大将藤原の
卿におくるとて

返し

こととはぬきにはありともわかせこかたなれのことはちにおかめやも

笛

門

かへすかへす思ふ心あるものをふしのあるへき竹のねそする
笛竹のよのさきてそいふなるゝかたはまてよの音をきかしと
けふもつくにさへ思ふ竹のねをきくにつけてもねのみなかるゝ

以上三巻　未考

新和恋五 読人不知
いにしへにめくりかへらす梓弓のもとつ思や絶しとも人とそれ
ハ新和

出羽梓弓ひきのゝつゝらなくさめんみるこしあれはゆく
らん　か

ゆとえそ未考
梓弓の下もすゝきゆめかよはまにひくもとかへすなし紙
ふる木すゑ　とゝろ夫

大和作 為抗名歌
梓弓のいはれはさらにたえぬくもあちくてふなをは思ひ遠さかるらん
ことを 名歌

ゆうん

万十一
かはらぬをそつねにまさると思しや君かわするゝつけぬ
こ官　ゑめや万　や訓　憑　せ　くん万　豪

たそみりんそと

古今四 注天帝
梓弓引ののつゝら末つひに我思ふ人にことのしけけん
ひ

同雑上 注人丸
あつさ弓いそへの小松たか世にか万代かねてたねをまきけん

まなあ部

万十一 作者未詳 人丸集
拾雑賀人丸
梓弓つるをゆるへてひくそこをはなれかくれ心をとなりてこそしれ
ひろすゝ本　そ官　も官　其其　そ人也　そこそそ八こハそと古　拾英人丸集与今同

古今二 列樹
梓弓ひけは本末我方によるこそまされ恋のきはか度
のこゝろは古

未考
梓弓末のはら野にとかりする君かゆつるのたえむとおもへや
いん

貫之

新和春下 貫之
梓弓春山ちかく家ゐしてたえすきゝつるうくひすのこゑ
山形ある所をかくしあれとも

家

万十二
梓弓末のたつきはしらねとも心は君によりにしものを

人まろ

万兵 安貴戴
梓弓ひきみゆるへしてゆるさしと我思は君をこそまちしや
大官

万二 久米禅師
梓弓絃とりはけひく人は後の心をしる人そひく
つるをとりはけ 万

同十一
梓弓ゆつかまきかへなかあてゝさらにひくとも君かまに〳〵
中見刺 なかさし

清ゆき

家 古今二
てる月をゆみはりとしもいふことは山へをさしていれはなりけり
いろわすゝ古

ガラス使用

万葉 あら哉　万三 同人大浦　未考　万二　未考　万三　万四　未考

人まろ

万十三 菅根之根毛一伏三向凝呂尓（スカノネノネモコロゴロニ）

かくしのみ物思ひをれは梓弓すゑのたつきはあらすてやふみ

万十二 梓弓末中一伏三起（スヱノナカコロ）ゆうらし君にはあひぬなけきはやめん

天地は(?)ひろけれとあつさゆみすゑのたつきはしらねとも

奥山のまゆみひきうちはへてよるこそまされこひの心は

みちのくのあたちのまゆみわかひかはすゑさへよりこしのひ／＼に

みちのくの安達のまゆみ心ひくこゝろはきみによりにしものを

於慮四ろのくのわさちのおのかこゝろにまつこゝろみ

大人

まゆみ弓はしめてしのちはいつも後ん人かよふつゝみ

こち

あつさゆみひきのまにまに露はおきてよるの遠

あつさゆみ春たつ人を恵の龍のまとみつゝけり

あつさゆみいそへのこまつたかよにかよろつ世かねてたねをまきけん

あつさゆみおしてはるさめけふふりぬあすさへふらはわかなつみてん

ゆみはりの月にまさりてよきひとのいるとやいはんいつもたえせて

あつさゆみはるのやまへをこえくれはみちもさりあへすはなそちりける

あつさゆみはるたちしよりとしつきのいるかことくもおもほゆるかな

かれ

かさ乃女郎

あつさゆみ引つのへなる名のりそのはなさくまてにあはぬきみかも

いさなとりあふみの海をおきさけてこきくる舟の

さや

笑中潜麿入ん

古事記仁徳天皇ノ歌 七枝刀一口 日本紀

あつさゆみひきつのへなるなのりそのはなさくまてにいもにあはぬかも

なつかしみやはらかにしてふりにけんこそのやなきのうらわかきかな

あつさゆみよるのまもりにひくたけのいなといふともいまはかへらし

菱万

以上三首末考

末考

末考

後列 後人之歌 宗于集

かゝみ

ゆきつもるとしのしるしにかゝみをはしらかみとこそみなりけれ
（夫木廿三 寛平御時后宮歌合 人不知）

今こんといひしはかりにしらかみの人はきえすもかけりける哉
（古今 今こんといひしはかりになが月のありあけの月をまちいでつるかな）

くもりなくみえしかゝみのかけにさへおもかけそへてみゆるかな

つれなきをみてもかへらぬ人ゆゑにかゝみのかけもかはりけるかな

あふき

たなはたのあまのかはらにあふきもてゆくあきかせはなつの名残か
（後撰 人のこひしき 後人之歌）

わか宿のこのはのかせにさそはれてあふきはいまはさてもあるらし
（大和物語）

秋風はあきのものなるをあふきゆゑなにかはかけしいまはたえなむ

よつの扇の風に心あるなんおもふことなきなかにしもあるかな
（宗于集）

あひおもふ人にはあふきいまはなくとてもさきにそはなれにけるかも
（於雑第一 後人之歌）

今はとてあきはてらるゝ扇には風のゆくへもかけゝるかな

あけゆけは秋のこゝろをあふきにはまつるゝ君かてなれけるかも

銀河あふきの風に霧はれて空すみ渡るかさゝきの橋
（拾雑秋之部）

わかためにあふきの風のよもすからたまくらさむき秋の夜のかせ
（こひわひてふくるよりかやゝさむき）

かさ

久方の天ゆく月をあみにさし我大君はかさにせりけり
（万三）

かすかなるみかさの山にゐる雲をいてみるかみにかさにきるらん

かけりとて雨はふらねとはらへともしのにさきたる白妙のかさ
（万十一）

かくてのみすみかへのうらにしほやきのうきめもなれぬ笠のしつく

なれゆくとおもひもかけぬ雨なれはかさにはきつゝつけしかも
（宗于集）

かさとりの山にふりくる時雨にはいまそかさなるへき
（風冬部 頼基集）

頼基集
万十一
同
同十一 本帖不已出
同又十二
万十二
古恋五 読人不知
古恋四 読人不知

新千雑下 雅俗
ちるまてゝいまてそみてくるまて雪はぬらしを梅の花笠
笠なりと人はいへともあまつゝみすゝとおもひかも也
続後撰 旅 人丸
紙世ころ紀伊のみてしほの浦のこすけの笠をきせて[illegible]
新千恋三 人丸
ゆかりする三笠の山にをる雲は[illegible]たてゝ[illegible]
わすれてはたゝみし[illegible]笠まきて出てそき雨のめくるに
[illegible]
ひさかたの雨のふる日を我門に蓑笠きすてくる人や誰
かへるん
[illegible]
[illegible]
[illegible]

万三
古春上 家 本六帖桜重出
万七 作者未詳
同
同 元正天皇
同八
夏万 本六帖友風已出

[illegible]
新和雑四 安芸王
いせの海の奥津白浪花にもかつゝみて妹か家つとにせん
すせい
朗詠 花
みてのみや人にかたらん桜花てことにおりて家つとにせん
丸郷
風雅中 読人不知
玉津嶋みれともあかすいかにしてつゝみもちゆかんみぬ人のため
人麿
宇治川に生る菅藻を川はやみとらすきにけりつとにせましを
足曳の山ゆきしかは山人の我にえしめし山つとそこれ
女郎花秋萩折れれ玉桙の道ゆきつとゝこはん子かため
吹風乃秋[illegible]清くまて[illegible]人には[illegible]てまし

貫之集
古恋五 小町 小町集
未考
同
古恋五 読人不知 新六帖 野以 守公
同雑上 壬生忠岑
未考
同

いろ

あきはして[illegible]なれや落る涙の紅の下[illegible]らん

色みえてうつろふ物は世中の人の心の花にそ有ける

と[illegible]の松のつらさに立衣

年ふれと色もかはらぬ[illegible]色まさるらん

世中の人の心は花染のうつろひやすき色にそ有ける

いろなしと人やみるらん昔よりふかき心にそめてしものを

続後撰恋一 読人不知

拾恋一 義忠

おかりつゝ[illegible]の色に出[illegible]
くれなゐみ

[illegible]紅[illegible]三輪山[illegible]らん

かく[illegible]世中[illegible]紅

未考
家々載 後拾秋下 読人不知
未考
古恋四 読人不知
万十一
未考
古雑体 読人不知
同恋一 読人不知
万十

拾恋五 読人不知

紅乃色[illegible]かくしあへ[illegible]あらはれにける

かく[illegible]ハ紅乃末つむ花のいろに出めて

万十 よそのみにみつゝこひなん紅の末摘花の色に出すとも
古今 人しれす思へはくるし紅の末摘花の色に出なん
我恋を忍ひかねてハあしひきの山橘の色に出ぬへし

貫之

立田川[illegible]

いろ[illegible]紅乃[illegible]

紅乃初花染乃色ふかくおもひし心我わすれめや

くれなゐの[illegible]涙つき[illegible]紅[illegible]袖を

白[illegible]紅乃[illegible]心[illegible]らんや

拾恋五 読人不知

紅にそめし心もたのまれす人をあくにはうつるてふなり

拾恋一 読人不知

人しれすおもへはくるし紅乃末つむ花のいろに出なん

よそのみにみつゝこひなん紅乃末つむ花の色に出すとも

未考
こゝまでも今ハあまねく紅乃色にいでぬへく人見えぬへく

同
くれなゐに袖そむ袂にも色にいでし何の色かまさるらん

万十六
紅にそめてし衣雨ふりてにほひハすともうつろはんやも

五句はうつろふ山のあきの紅にそむる人の袖さへそする

古恋三 友則
友則集
くれなゐの色にハいでし隠沼乃下にかよひて恋ハしぬとも

続後撰 秋下 寛平御時后宮歌合 よみ人しらず
山花紅葉
雁かねハからくれなゐにうつりけり雨ふりてさへそむるなるらん

むらさき紙

古雑上 よみ人しらず
紫乃ひともとゆゑにむさし野乃草ハみなからあはれ
なりけり

こゝろあはれとそみる古

同 伊物
紫乃色こき時ハめもはるに野なる草木もむつましきかな

そわかれさりける 伊 古

万十
紫乃ねはふよこのゝ春野にハ君をこひつゝ鶯そなく

同四
韓人乃衣そむてふ紫乃心にしみておもほゆるかな

未考
出むさしのゝと日ハくれぬるにゆくゝみかへりやとらん人かもとし

古恋三 よみ人しらず
いふかハしたにやあらん紫のねすりの衣色にいつなゆめ

こひしく古
とおもへ古

万三
つくまのにおふる紫衣にそめいまたきすして色に出にけり
かさの女郎

未考
むかはらす紫ハいかにかくたちかへりよしやそれとハ紫のゆへ

くちなし

続古恋一 よみ人しらず
思ふとも恋ふともいはしくちなしの色に衣をそめてこそきめ

古雑体
素性
山吹の花色衣ぬしやたれとへとこたへすくちなしにして

未考
くちなしの色にそめくあはいきてふよ物いひしても思へ
みなから
むねゆき

家 古春上
赤
芳万
古雑体 読人しらず
古秋下
後秋下 読人しらず
同
同

ときはなる松のみとりも春くれハ今ひとしほの色まさりけり
下紅葉みえける柏木松のおくハみとりをたのみけるかな
（拾遺三 読人しらす するをはしらて松の 木の上の）
（後撰四 かの松を緑とたのみてハ下の句すこしかハる）
（同雑三 緑なるはけれともいかてなほ葉ハいろもかハるらん）
伊勢
（拾雑上）
海のほとりなる松のみとりふかくしけとかハ春くるらん
（拾春 同これ 万葉の中）
あさみとり野への霞ハつゝめともこほれてにほふ花桜かな
みつね
心よりしたにおもへハかく緑せまさる松にはれにける
せきを
露ならて霞あまたもしてもかゝる山の錦ハなれハいかなる
名もにほふ秋をしらぬか紅葉の錦ハ見よの紅葉さへ
古紙まつよ錦の紅葉山紅葉ゆきハ錦にまかなるへき人やある

古秋下 芳万 赤
家三載 後撰下 読人しらず
後冬
家三載 後秋下 読人しらず
家三載 後秋下 読人しらず

神なひのみむろの山を秋ゆけハ錦たちきる心ちこそすれ
たゝみね
ちりかゝて見る人もなき山進ハ秋の林ハ錦とそみる
貫之
よしかせ
紅葉をは錦とみつゝ時雨こそもよそにをるこそ
兼輔
嵐風乃ふきくる嶺ハ山もとゝく錦おりかくるそ見れ
いせ
紅葉ゝの流れてゆかハ錦まて家の綿の人やとふらん
貫之

家云戴 後秋下 読人不知
万十一
貫之集云戴 後秋下 読人不知
古秋下 注平城帝
後秋下 読人不知
家 後秋下 読人不知
万十二 第二帖 垣穂題 上句亦出

秋されはをく露霜の流れまするは雲の林の紅葉なりけり

かり錦をきあはせてゆふへまたれぬ今日の夜やあれ
人まろ

秋風にちる紅葉ゝは女郎花宿におりしく錦なりけり

立田川もみち乱れて流るめりわたらは錦中や絶なん

紅葉ゝのなかれてとまる湊には紅深き浪やたつらん

紅葉ゝのちるをは旅に川とゝめ錦をたゝんかた(の)しらなん
貫之

かきほなる人には見えてから錦立をく紅葉のくるゝをしまん
人まろ

或書云此間有繈之題而無哥皆随古本耳

いと

夜るなれてひまなく糸のぬきためしあさけくるゝと縫ふとのなを

かた糸をこなたかなたによりかけてあはん後は何か玉のをにせん

かうちめのてそめの糸をくりかへしかた糸にあれと絶んとおもへや

しらまゆの糸のよるひるおもひいてゝかくれぬ人にあはんとそおもふ

乱れ糸をよりつゝおもふ我なかを人は何とか絶ぬといはん
とゝる

よりあはせて我をそ人のなかになくはすそめてすみのあかつきのめの

830
6
181

未考
伊勢集 古雑上伊勢
同 承均法師
同 橘長盛
未考

拾遺四 読人不知

玉川にさらす調布さらさらにむかしの人の恋しきやなそ　いかゝ官

なにそこのこのここたかなしき 万十四

みちのくのけふのせはぬのほとせはみむねあひかたき恋もするかな

後拾遺一 能因 錦木はそめしこそ朽にけれけふのほそ布むねあはしとや

たちぬはぬきぬきし人もなきものをなに山姫の布さらすらん

誰かためにかけてさらせる布なれや世をへてみれとくる人もなき　ひきし古　と古　の官

あるしなくてさらせる布を織女にわか心とやけふはかさまし

白河にさらしゝ布もあらなくに流れて滝のはらゆるし　うら官　紀

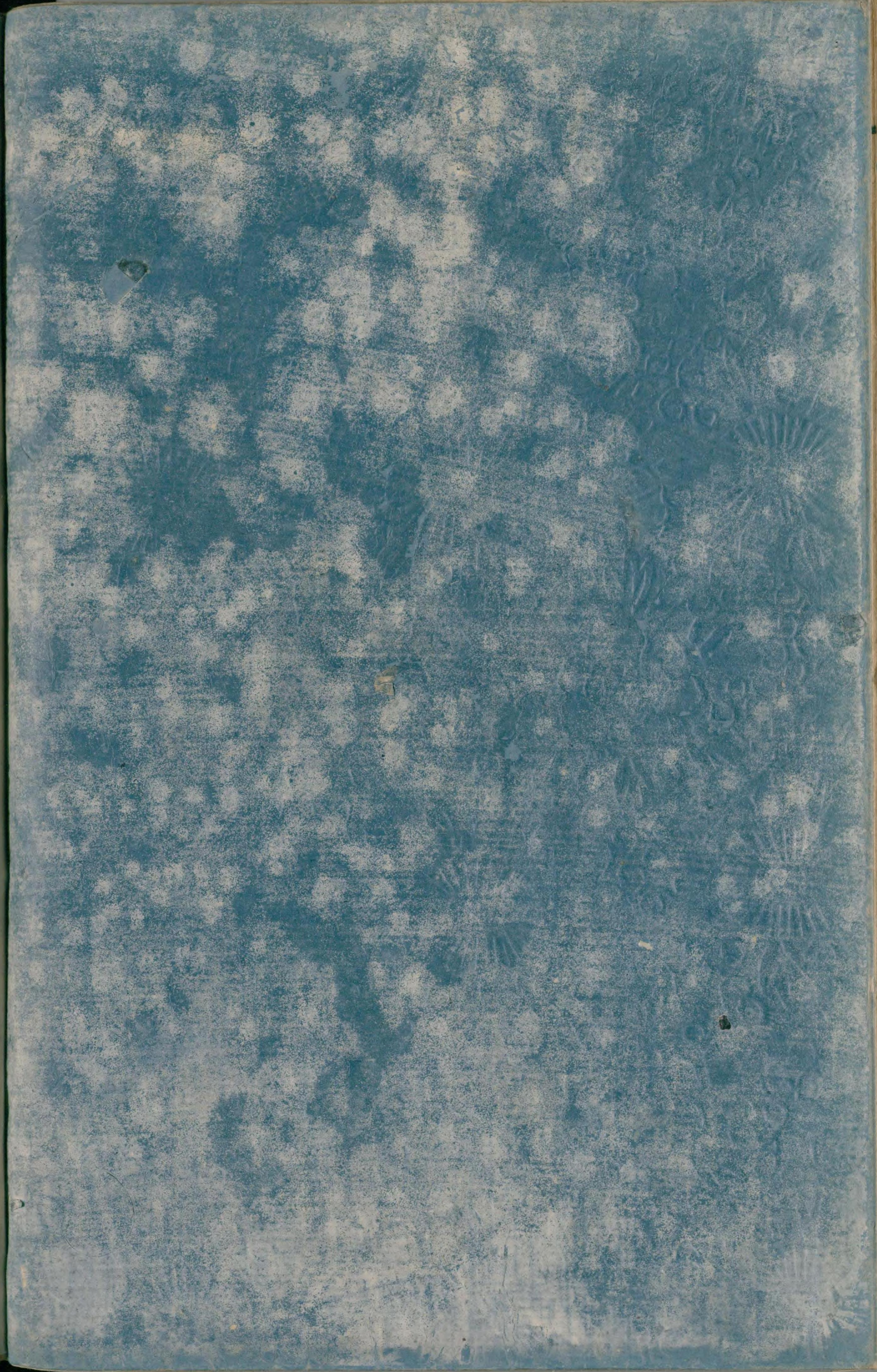
万葉十四東歌云 玉川にさらすてつくりさらさらになにそこのこのここたかなしき
又白字の作して見ゆるかはりや

夫木廿三 布 読人不知
をとめこかとろそ花こそいみとさかうしのそてのさらしてつくり
古本にこれありて今の本落たるを以補之

又布六帖 読人不知
錦木はそめしこそ朽にけれけふのほそ布むねあはしとや
但後拾遺ハ能因法師 夫木作り

林本云
禁裏様以御本書写校合畢

830
6
181



帝國圖書館藏

ガラス使用